

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年6月25日

【事業年度】 第57期(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

【会社名】 株式会社JMAホールディングス

【英訳名】 JMA HOLDINGS Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 加藤 文昭

【本店の所在の場所】 東京都港区芝公園三丁目1番22号

【電話番号】 03(3436)4304

【事務連絡者氏名】 取締役 事業・管理本部本部長 藤枝 宏幸

【最寄りの連絡場所】 東京都港区芝公園三丁目1番22号

【電話番号】 03(3436)4304

【事務連絡者氏名】 取締役 事業・管理本部本部長 藤枝 宏幸

【縦覧に供する場所】 該当事項はありません。

## 第一部 【企業情報】

### 第 1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第53期	第54期	第55期	第56期	第57期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
売上高 (千円)	31,878,616	19,532,353	20,919,646	20,333,883	19,809,165
経常利益金額 (千円)	1,068,354	1,165,711	691,108	1,252,862	732,725
親会社株主に帰属する 当期純利益金額又は 親会社株主に帰属する 当期純損失金額 ( ) (千円)	77,270	648,198	223,796	725,315	485,334
包括利益金額 (千円)	29,856	714,031	168,000	698,221	504,474
純資産額 (千円)	12,834,913	13,630,000	13,776,076	14,598,046	14,988,723
総資産額 (千円)	20,590,993	22,250,738	22,386,861	23,991,962	26,641,443
1株当たり純資産額 (円)	3,594,827.47	3,881,554.43	3,997,509.90	4,093,605.43	4,121,953.96
1株当たり当期純利益金 額又は当期純損失金額 ( ) (円)	10,050.35	183,357.62	64,175.70	206,073.19	135,713.83
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	62.1	61.0	61.3	60.6	56.2
自己資本利益率 (%)	0.5	4.8	1.6	5.0	3.1
株価収益率 (倍)	-	-	-	-	-
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,878,140	1,752,768	1,231,681	253,828	209,727
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	514,647	96,287	274,656	1,665,833	3,011,587
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	610,704	208,204	68,917	904,963	2,426,574
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	6,517,561	7,973,081	9,517,946	8,995,811	8,216,824
従業員数 〔ほか平均臨時雇用人員〕 (名)	846 〔108〕	830 〔92〕	802 〔118〕	798 〔104〕	795 〔107〕

(注1) 売上高には、消費税等は含まれておりません。

(注2) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注3) 株価収益率は当社株式が非上場であるため記載しておりません。

(注4) 第53期連結会計年度末をみなし除外日として、主要子会社を持分法適用会社としているため、売上高等が減少しております。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第53期	第54期	第55期	第56期	第57期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
売上高 (千円)	631,007	631,932	573,306	700,346	651,920
経常利益金額又は経常損失金額 ( ) (千円)	125,551	63,741	567,696	316,274	728,408
当期純利益金額又は当期純損失金額 ( ) (千円)	440,738	99,697	165,160	243,379	629,533
資本金 (千円)	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000
発行済株式総数 (株)	甲種類株式 38,906 乙種類株式 76	甲種類株式 38,906 乙種類株式 76	甲種類株式 38,906 乙種類株式 76	甲種類株式 38,906 乙種類株式 76	甲種類株式 38,906 乙種類株式 76
純資産額 (千円)	11,345,688	11,445,261	11,256,034	11,025,674	10,392,344
総資産額 (千円)	14,054,518	14,270,329	13,448,953	14,528,175	15,910,414
1株当たり純資産額 (円)	3,190,714.17	3,274,109.04	3,280,986.83	3,105,189.90	2,858,306.67
1株当たり配当額 (1株当たり中間配当額) (円)	5,000 (-)	5,000 (-)	5,000 (-)	5,000 (-)	5,000 (-)
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額 ( ) (円)	57,325.32	28,201.83	47,361.38	69,147.70	176,036.08
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	80.5	80.2	83.7	75.9	65.3
自己資本利益率 (%)	3.9	0.8	1.4	2.2	6.0
株価収益率 (倍)	-	-	-	-	-
配当性向 (%)	8.7	17.7	-	-	-
従業員数 〔ほか平均臨時雇用人員〕 (名)	5 〔1〕	6 〔1〕	7 〔 - 〕	4 〔 - 〕	5 〔 - 〕

(注1) 売上高には、消費税等は含まれておりません。

(注2) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため、記載しておりません。

(注3) 株価収益率は当社株式が非上場であるため記載しておりません。

(注4) 第55期、第56期及び第57期は当期純損失を計上しているため、配当性向は記載しておりません。

## 2 【沿革】

提出会社は、社団法人日本能率協会のビル建設、その後の管理運営を目的として、社団法人日本能率協会の主要会員が株主となり、昭和36年7月に日本協立地所株式会社として設立されました。設立以降の沿革は次の通りであります。

年月	概要
昭和36年7月	東京都中央区銀座にビル建設、管理運営を事業目的として、資本金2億5千万円で日本協立地所株式会社（現・株式会社JMAホールディングス）を設立。
昭和38年5月	資本金5億円に増資。
昭和39年1月	協立ビルディング（現・日本能率協会ビル、現・社屋及び賃貸建物）竣工。
昭和42年5月	日本協立株式会社と社名変更。
昭和44年5月	本社を東京都港区に移転。
昭和45年5月	株式会社ニチノーと社名変更。
昭和46年11月	社団法人日本能率協会の収益事業だったコンピュータ事業部を独立分離し、社団法人日本能率協会グループの一員として株式会社ジェーエムエーシステムズ（現・連結子会社）を設立。資本金3億8150万円。
昭和55年4月	社団法人日本能率協会の収益事業だったコンサルティング事業を独立分離し、社団法人日本能率協会グループの一員として株式会社日本能率協会コンサルティング（現・連結子会社）を設立。資本金1億5千万円。
昭和59年4月	社団法人日本能率協会の収益事業だった総合研究所とマーケティング・データバンクを統合独立し、社団法人日本能率協会グループの一員として株式会社日本能率協会総合研究所（現・連結子会社）を設立。資本金1億5千万円。
平成3年8月	社団法人日本能率協会の収益事業だった社内教育事業、手帳事業、出版事業等を独立分離し、社団法人日本能率協会グループの一員として株式会社日本能率協会マネジメントセンターを設立。資本金10億円。
平成17年1月	社団法人日本プラントメンテナンス協会の収益事業を独立分離し、社団法人日本能率協会グループの一員として株式会社JIPMソリューションを設立。資本金1億円。
平成23年3月	株式会社JMAホールディングスと社名変更。株式会社ジェーエムエーシステムズ、株式会社日本能率協会コンサルティング、株式会社日本能率協会総合研究所、株式会社日本能率協会マネジメントセンター及び株式会社JIPMソリューションを株式交換により完全子会社とし、持株会社体制へ移行。
平成25年7月	株式会社日本能率協会コンサルティングが株式会社JIPMソリューションを吸収合併。資本金2億5千万円。

### 3 【事業の内容】

当社グループは、当社、当社の子会社9社（うち連結子会社9社）及び関連会社1社（うち持分法適用会社1社）の計11社によって構成され、調査、コンサルティング、出版等のサービスを提供するシンクタンク・コンサルティング事業と、情報システムの開発、導入、運用等を提供するITソリューション事業、不動産賃貸を行う不動産賃貸事業を主な事業として取り組んでおります。

当社及び当社の関係会社の事業における当社及び関係会社の位置付け及びセグメントとの関連は、次のとおりであります。なお、以下に示す区分は、セグメントと同一の区分であります。

#### （シンクタンク・コンサルティング事業）

当社の連結子会社である㈱日本能率協会コンサルティングを中心として、R&D開発マネジメント領域、戦略・マーケティング領域、生産・ロジスティクス領域など、各領域のプロフェッショナルコンサルタントによって、改善・革新方向を提案するだけに終わることなく、実践・成果実現とそのフォローまでを確実にを行うことを特徴としたコンサルティングサービスを提供しております。

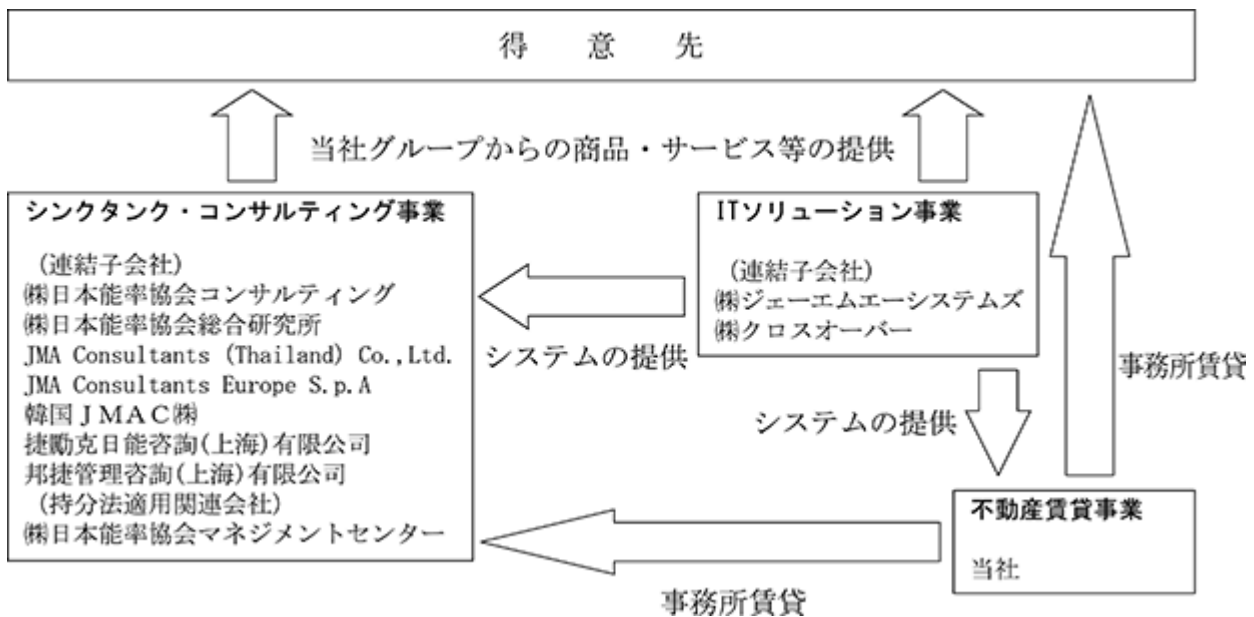
#### （ITソリューション事業）

当社の連結子会社である㈱ジェーエムエーシステムズを中心として、コンサルティングサービスからシステム導入、運用に至るまで、お客様の経営課題に応える最適なソリューションを提供するサービスを行っております。

#### （不動産賃貸事業）

当社は、不動産賃貸事業を行っております。また持株会社として子会社及び関連会社を統括しております。

[事業系統図]



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金 (千円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 [被所有]割合 (%)	関係内容
(連結子会社) (株)ジェーエムエーシステムズ(注2、5)	東京都港区	381,500	ITソリューション事業	100.0	役員の兼任 5名
(株)日本能率協会コンサルティング(注2、5)	東京都千代田区	250,000	シンクタンク・コンサルティング事業	100.0	事務所賃貸 役員の兼任 6名
(株)日本能率協会総合研究所(注2、5)	東京都港区	150,000	シンクタンク・コンサルティング事業	100.0	事務所賃貸 役員の兼任 5名
(株)クロスオーバー	東京都港区	16,000	ITソリューション事業	100.0 (100.0)	役員の兼任 1名
JMA Consultants Europe S.p.A.	イタリア ミラノ	1,000 千ユーロ	シンクタンク・コンサルティング事業	100.0 (100.0)	役員の兼任 1名
捷勵克日能諮詢(上海)有限公司	中華人民共和国 上海	5,276 千元	シンクタンク・コンサルティング事業	100.0 (100.0)	役員の兼任 1名
邦捷管理諮詢(上海)有限公司	中華人民共和国 上海	200 千元	シンクタンク・コンサルティング事業	51.0 (51.0)	役員の兼任 1名
JMA Consultants (Thailand) Co.,Ltd.	タイ バンコク	5,000 千タイバツ	シンクタンク・コンサルティング事業	100.0 (100.0)	役員の兼任 1名
韓国JMAC(株)	大韓民国 ソウル	1,142,500千 韓国ウォン	シンクタンク・コンサルティング事業	100.0 (100.0)	役員の兼任 1名

名称	住所	資本金又は 出資金 (千円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 [被所有]割合 (%)	関係内容
(持分法適用関連会社) ㈱日本能率協会マネジメン トセンター(注3)	東京都中央区	1,000,000	シンクタンク・ コンサルティング 事業	32.8	役員の兼任 2名

(注1) 主要な事業の内容欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。

(注2) 特定子会社であります。

(注3) 有価証券報告書を提出しております。

(注4) 「議決権の所有[被所有]割合」の( )内は、間接所有割合で内数であります。

(注5) ㈱ジェーエムエーシステムズ、㈱日本能率協会コンサルティングおよび㈱日本能率協会総合研究所につい  
ては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等

㈱ジェーエムエーシステムズ	売上高	8,698,515千円
	経常利益	460,460千円
	当期純利益	301,356千円
	純資産額	2,124,046千円
	総資産額	5,222,655千円
㈱日本能率協会コンサルティング	売上高	6,291,665千円
	経常利益	464,008千円
	当期純利益	366,641千円
	純資産額	3,438,583千円
	総資産額	6,590,384千円
㈱日本能率協会総合研究所	売上高	3,478,416千円
	経常利益	304,459千円
	当期純利益	196,139千円
	純資産額	3,383,236千円
	総資産額	4,977,767千円

## 5 【従業員の状況】

## (1) 連結会社の状況

平成30年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
シンクタンク・コンサルティング事業	420 ( 91 )
ITソリューション事業	370 ( 16 )
不動産賃貸事業	2 ( - )
全社(共通)	3 ( - )
合計	795 ( 107 )

(注1) 従業員数は、当社グループからグループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者を含む、就業人員数であります。

(注2) 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。

(注3) 全社(共通)は、特定のセグメントに区分できない管理部門の従業員であります。

## (2) 提出会社の状況

平成30年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数	平均年間給与(千円)
5 ( - )	54.8	4年8か月	9,162

セグメントの名称	従業員数(名)
不動産賃貸事業	2 ( - )
全社(共通)	3 ( - )
合計	5 ( - )

(注1) 従業員数は、当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む、就業人員数であります。

(注2) 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。

(注3) 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(注4) 全社(共通)は、特定のセグメントに区分できない管理部門の従業員であります。

## (3) 労働組合の状況

労働組合はありません。

なお、労使関係については円滑な関係にあり、特記すべき事項はありません。



## 第2 【事業の状況】

### 1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

現在の我が国の経済は、円安の進行等による企業収益の改善や設備投資及び個人消費の持ち直しなどを背景に穏やかに回復しつつあります。

当社グループはこれらのことを踏まえ、以下のような課題に取り組んでまいります。

#### (1) 事業競争力の向上

市況のグローバル化や顧客ニーズの多様化に対応するために、既存事業の品質と生産性の向上に努めるとともに、上記の経営とITの連動による新しい価値創造、アジアの発展に向けたグローバル化対応支援、産業界の発展に向けた官公庁による政策の支援等に関する新規事業の開拓に積極的に取り組んでまいります。

#### (2) 人材の充実

当社グループにとって人材が最も重要な経営資源であると認識しており、人材の確保と育成が極めて重要な課題であります。そのため、人材に対する投資を積極的に行い、人材育成に努めてまいります。

#### (3) CSR（企業の社会的責任）経営の推進

当社グループの健全な成長と企業価値の向上のためには、企業の社会的責任（CSR）に立った経営が不可欠と認識しております。CSRを遂行し、当社グループの関係する全ての人々から信頼されるグループになるべく努力してまいります。

#### (4) 内部統制、コーポレート・ガバナンスの向上

経営の透明性、健全性、遵法性を確保するためにコーポレート・ガバナンスの向上が不可欠であると認識しており、その基盤として、内部統制機能の確立は極めて重要な課題であると考えております。当社グループにおいて、より健全で効率的な経営を遂行するためにより一層、内部統制の充実を図ってまいります。

## 2 【事業等のリスク】

当社グループの事業等において、投資家の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、次のようなものがあります。当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識したうえで、発生の回避及び発生した場合の対応に努める所存です。また、当社グループとして必ずしも事業上のリスクとして考えていない事項についても、投資家の投資判断、あるいは当社グループの事業活動を理解するうえで重要と考えられる事項については、投資家に対する積極的な情報開示の観点から記載しております。

なお、これらは事業等に関するリスクのうち代表的なものであり、実際に起こり得るリスクはこの限りではありません。また、本文中の将来に関する事項は、有価証券報告書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

### (1) 情報サービス産業について

情報サービス分野においては、景気の回復を受け、企業の収益の改善が見られるものの実体経済面での回復まで、投資の抑制やコンサルティング等への支出抑制が懸念されております。このような状況下、業界内の価格競争が加速する可能性があります。当社グループは、コンサルティングからシステム開発・運用に至る総合力をさらに高め、サービスの高付加価値化により競合他社との差別化を図るとともに生産性の向上等の質的転換に取り組んでいます。しかしながら、想定以上の価格競争が発生した場合、当社グループの業績に影響を受ける可能性があります。

### (2) システム開発について

情報システムは、重要な社会インフラであり、完成後の安定稼働に向け、開発段階から品質管理、リスク管理が重要と考えています。当社グループは、教育研修等を通じプロジェクトマネージャの管理能力の向上に努め、また、ISO（国際標準化機構）9001に準拠した品質マネジメントを整備しています。特に一定規模以上のプロジェクトに対しては、プロジェクト立上げ段階から安定稼働まで進捗状況に応じ納期・コスト・品質面からの審査を施しプロジェクト運営の改善を進めています。しかしながら、作業工数の増加や納品後の性能改善等の追加費用が発生した場合、最終的な採算が悪化する可能性があります。

### (3) 官公庁との取引について

官公庁においては、一般競争入札の増加など、市場環境が大きく変化し、受注競争激化や価格下落の傾向が強まっております。当社グループでは、生産性の向上、高品質による非価格競争力、品質管理の徹底等により顧客の信頼をより強固なものとするよう努力しておりますが、予想を超える官公庁の予算縮小等があった場合には、業績に影響を及ぼす可能性があります。

### (4) 人材の確保・育成について

お客様の多様なニーズに応えるサービスを行っていくためには、優秀な人材を確保し、育成していく必要があると考えております。採用に関しては、優秀な学生の母集団形成を行うべく就職活動支援サイトや各種メディアへの積極的な露出と知名度アップ、留学生フェアなどでの国内学生とは視点の異なる人材の積極的な採用、大学との積極的な連携維持等に努めています。また、人材育成面では、若手層の退職率低減のために、採用時の選考過程で業種ミスマッチ判断を強化しています。さらには、業務に直接必要な技術の研修だけでなく、定期的に自己を振り返り、ストレス耐性を強め、リーダーシップを育成するなど人間力強化の施策に努めています。しかしながら、少子化や労働市場の流動化等の理由により、事業展開上必要な量の人材の確保・維持が困難となる状況となることが考えられます。その場合には業績に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 情報セキュリティについて

当社グループの事業では、顧客の機密情報や個人情報等を多く取り扱っており、それらの情報管理やセキュリティ管理は最も重要な事項のひとつであります。このため、一部の事業では情報セキュリティマネジメントシステムの認証を取得し、機密情報の適切な管理を行っています。また、常に高度なセキュリティレベルを維持するため、システムによる入退室の管理や、ネットワーク上のパソコン等の機器のセキュリティ管理の徹底を行っています。しかしながら、情報漏えい等の事態が発生した場合には、顧客等からの損害賠償請求や信用失墜に繋がり、業績に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 業績の季節的変動について

当社グループの主力事業であるシンクタンク・コンサルティング事業は、主要な取引先である企業や官公庁の会計年度の関係により、年度末に完了するプロジェクトが多いことから、上半期に比べて下半期の業績の方が売上高及び利益が高くなる傾向にあります。

### 3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (経営成績等の状況の概要)

当連結会計年度における当社グループ(当社、連結子会社及び持分法適用会社)の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー(以下、「経営成績等」という。)の状況の概要は次のとおりであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度における世界経済は、米国では堅調なペースで景気の拡大が続いており、個人消費も堅調に推移しています。ユーロ圏では、景気回復は堅調であるものの、個人消費は減速気味となっています。アジアでは、中国の減速がみられますが、全体としては底堅く推移しています。

一方、我が国におきましては、海外経済の回復、国内在庫の改善、東京オリンピック関連の設備投資の増加等により、景気回復が継続しています。個人消費につきましても、持ち直しつつあります。今後は、海外政治・経済の不透明感はあるものの、経済状況は安定していくとみられます。

このような状況下、売上高は19,809,165千円(前年同期比2.6%減)、営業利益は328,334千円(前年同期比65.1%減)、経常利益は732,725千円(前年同期比41.5%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は485,334千円(前年同期比33.1%減)となりました。

セグメントごとの経営成績は以下のとおりです。

#### (シンクタンク・コンサルティング事業)

シンクタンク・コンサルティング事業は、官公需の下支えの下、緩やかな景気回復が続いているものの、2017年3月期と比べて、増収減益となりました。世界的に景気動向が不透明になる中で、シンクタンク事業もコンサルティング事業も先行きが読みにくい状況ですが、今後の景気動向をよく判断しながら、事業運営に努めていきます。

このような状況下、外部への売上高は10,794,988千円(前年同期比3.3%増)、セグメント利益は701,433千円(前年同期比2.5%減)となりました。

#### (ITソリューション事業)

ITソリューション事業は、当社の主力となる金融事業において、大型案件が開発から保守工程へ移行した影響により活動規模が大幅に縮小したことから減収となりました。その他の領域(ベンダー系事業、プライム系事業、関西事業)においては、引き続き堅調に推移したものの、全体では、期初の予算を下回る活動実績となりました。

当連結会計年度までの中期事業計画では、「市場でのポジション拡大」「事業ポートフォリオの転換」「人材の強化」を重点施策として取り組んでまいりました。

このような状況下、外部への売上高は8,684,872千円(前年同期比9.0%減)、セグメント利益は460,955千円(前年同期比30.2%減)となりました。

(不動産賃貸事業)

大規模改修による「新・日本能率協会ビル」の建設につきましては、2017年10月末に竣工し、その後、什器の搬入・引越し等を経て、2018年1月5日よりオープンしております。

新ビルの建設にあたっては、○安心・安全な建物、○人と環境にやさしい建物、○「教育の殿堂」にふさわしい研修室の整備、○お客様とコラボレーションを活性化する施設、○働き方改革に向けたオフィス環境の整備、を心掛けました。

日本能率協会グループの多くの法人が入居し、今後は、日本能率協会グループの情報発信基地として、産業界への貢献を高めて参ります。

このような状況下、外部への売上高は329,304千円(前年同期比5.2%減)、セグメント損失は561,507千円(前年同期は215,413千円の損失)となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は、8,216,824千円(前年同期比8.7%減)となりました。当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度において営業活動により使用した資金は、209,727千円(前年同期は、253,828千円の収入)となりました。これは主に未収入金の増加によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度において投資活動により使用した資金は、3,011,587千円(前年同期比80.8%増)となりました。投資有価証券の償還による収入(前年同期比35.9%増)があったものの、有形固定資産の取得による支出(前年同期比64.4%増)や差入保証金の返還による支出(前年同期は支出なし)があったためであります。投資有価証券の償還による収入、有形固定資産の取得による支出及び差入保証金の返還による支出は、主として不動産賃貸事業によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度において財務活動により得られた資金は、2,426,574千円(前年同期比168.1%増)となりました。これは、主に長期借入金の収入(前年同期比150.1%増)によるものです。この長期借入金の収入は、主として不動産賃貸事業の賃貸ビル改修のために使用されています。

(生産、受注及び販売の状況)

(1)生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(千円)	前年同期比(%)
シンクタンク・コンサルティング事業	-	
ITソリューション事業	7,057,010	93.1
不動産賃貸事業	-	-
合計	7,057,010	93.1

(注1) セグメント間取引については、相殺消去しております。

(注2) 金額は、製造原価によっております。

(注3) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(注4) シンクタンク・コンサルティング事業に含まれておりますコンサルティング事業、研修事業は、生産として捉えておりませんので、上記金額に含めておりません。

(2)受注実績

当連結会計年度における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
シンクタンク・コンサルティング事業	9,813,157	102.0	1,410,916	134.8
ITソリューション事業	8,738,187	94.1	1,003,606	90.0
不動産賃貸事業	-	-	-	-
合計	18,551,344	98.1	2,414,522	111.6

(注1) セグメント間取引については、相殺消去しております。

(注2) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(注3) シンクタンク・コンサルティング事業に含まれております出版事業、研修事業につきましては、受注販売を行っていないため、上記の金額に含まれておりません。

(3)販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同期比(%)
シンクタンク・コンサルティング事業	10,794,988	103.3
ITソリューション事業	8,684,872	91.0
不動産賃貸事業	329,304	94.8
合計	19,809,165	97.4

(注1) セグメント間取引については、相殺消去しております。

(注2) 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
みずほ情報総研(株)	4,708,716	23.2	3,640,827	18.4

(注3) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容)

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。  
なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表及び当社の財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表等の作成にあたり、見積りが必要な事項につきましては、過去の実績などの合理的な基準に基づき見積りを行っております。

(2) 当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

当社グループの当連結会計年度における連結業績は、売上高19,809,165千円（前年同期比2.6%減）、営業利益328,334千円（前年同期比65.1%減）、経常利益732,725千円（前年同期比41.5%減）、親会社株主に帰属する当期純利益485,334千円（前年同期比33.1%減）となりました。

売上高については、ITソリューション事業の中の金融事業において、大型案件が開発から保守工程へ移行した影響（1,067,889千円）により、大きく売上高を落としましたが、モバイル事業等の健闘により、全体としては、524,718千円の減少に留まりました。

売上原価は、外注費の削減（560,227千円）の効果により、14,697,701千円となりました。売上高に対する構成比は74.2%となりました（前年同期比1.0%）

販売費および一般管理費は、人件費の増加（346,499千円増）等の理由により、687,497千円増加し、4,783,129千円となりました。

これらの結果、営業利益は、328,334千円（前年比612,474千円）となりました。

営業外収益に関しましては、持分法投資損益が91,647千円増加したことにより、419,796千円となり、営業外費用は、主として為替差損の減少（2,708千円）により、15,405千円となりました。

これにより、経常利益は732,725千円（前年同期比520,137千円）となりました。

特別利益は、主として補助金収入により、94,074千円となりました。

特別損失は、主として事務所移転費用により、201,839千円となりました。

上記の結果、税金等調整前当期純利益は624,960千円（前年同期比547,393千円）となり、親会社株主に帰属する当期純利益は、485,334千円（前年同期比239,981千円）となりました。

(流動資産)

当連結会計年度末の流動資産の残高は14,026,718千円（前年同期比4.0%減）となりました。主な内容は、現金及び預金8,267,995千円、受取手形及び売掛金4,481,797千円であります。

(固定資産)

当連結会計年度末の固定資産の残高は12,614,725千円（前年同期比34.4%増）となりました。主な内容は、投資有価証券5,282,332千円、建物及び構築物4,527,519千円であります。

(流動負債)

当連結会計年度末の流動負債の残高は3,540,004千円（前年同期比8.9%増）となりました。主な内容は、支払手形及び買掛金626,285千円、短期借入金372,399千円であります。

(固定負債)

当連結会計年度末の固定負債の残高は8,112,715千円（前年同期比32.0%増）となりました。主な内容は、退職給付に係る負債4,343,408千円、長期借入金3,202,295千円であります。

(純資産)

当連結会計年度末の純資産の残高は14,988,723千円（前年同期比2.7%増）となりました。主な内容は、資本剰余金9,389,178千円、利益剰余金7,344,413千円であります。

当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因として、景気の変動、人件費の上昇が挙げられます。景気が低迷した場合、当社グループのコンサルティングや、教育事業への受注額が減少することが考えられます。

キャッシュ・フローの分析につきましては、「3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (2) キャッシュ・フローの状況」に記載の通りであります。

セグメントごとの財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容は、次のとおりであります。

(シンクタンク・コンサルティング事業)

シンクタンク・コンサルティング事業は、海外の連結子会社の受注状況が安定せず、厳しい運営状況が続いているため、受注残や資金状況を注視しております。しかしながら、国内の状況は堅調を保っており、人材育成等に注力しております。

(IT・ソリューション事業)

IT・ソリューション事業は、金融事業の割合が高く、この事業の受注状況によって損益が大きく上下することが考えられます。そのため、モバイル事業や、クラウド事業に経営資源を振り分け、それらの育成を図っていく予定です。

(不動産賃貸事業)

不動産賃貸事業は、賃貸ビルの大改修が終了し、今後は、その際の借入金の返済と、資金増強を主眼とし、運営していく予定です。



#### 4 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

#### 5 【研究開発活動】

当社グループは、グループ各社が各々の中長期的な事業の発展成長に資するため、顧客ニーズを先取りし、有用と思われる様々な研究テーマを抽出して研究開発を行っております。

各事業の研究開発活動の内容は、以下のとおりであり、研究開発費の総額は253,360千円であります。

なお、当事業年度において当社は研究開発活動を行っておりません。

##### (1) シンクタンク・コンサルティング事業

シンクタンク・コンサルティング事業の研究開発活動については、主に当社子会社の株式会社日本能率協会コンサルティングで行っております。株式会社日本能率協会コンサルティングでは、お客様へのコンサルティング活動と技術・商品開発活動を一体で進める伝統的な研究開発スタイルを踏襲し、地道に研究開発を進めてきました。

一方、将来を先取りする研究開発活動としては、「IoT (Internet of Things) 4.0」「スマートファクトリー」「働き方改革」についての研究開発活動が挙げられます。

「IoT4.0」「スマートファクトリー」の研究開発活動では、IoT技術を使ったFact-Finding・現状分析の実証実験を行い、新しいコンサルティングスタイルの構築を目指しています。このテーマは、当社連結子会社のシステム開発会社、株式会社ジェーエムエーシステムズと一緒に進めています。

「働き方改革」は、生産年齢人口の減少、少子高齢化を迎える日本産業界にあって、どうしても取り組まざるを得ない大改革で、そうした社会的改革ニーズに速やかに対応すべく、研究開発に取り組んでいます。「働き方改革」の研究では、業務プロセス改革を通じた残業削減や、女性活用、子育て支援、高齢者活用などのダイバーシティなどを含めた就業環境の構造改革のためのマネジメント技術の開発に努めています。

さらに「品質保証の再構築」は、昨今の企業における品質問題が話題になっていますが、品質管理の専門家による指導・実績を通じて進めています。

以上の研究開発に伴う研究開発費用は117,630千円です。

##### (2) ITソリューション事業

ITソリューション事業の研究開発は、主として株式会社ジェーエムエーシステムズで行っております。毎週開催の「商品企画会議」を設け中長期的な視点に立った新規技術・先端技術の調査・研究、当社オリジナル商品の企画・開発に取り組んでおります。当連結会計期間は前期に引き続き、スマートデバイス事業を推進する上で必要な関連技術の習得と深耕、及び日本能率協会コンサルティングと共同でIoT関連のサービスの企画開発を行いました。

###### スマートデバイス向け製品の研究・開発

スマートデバイス向け製品の研究・調査を前期に引き続き実施しています。

事業企画部を中心に、社内横断的な協業体制の下で、業界動向や市場ニーズの調査を行なって商材のアイデアを出し、具体的な製品の企画・検討・評価までを実施しています。

今期は下記の製品候補題材について調査・研究・製品化検討を引き続き行いました。

- ・ センサーなど各種の新しいデバイスの活用
- ・ 人工知能技術の活用

###### KAITO Secureシリーズの研究・開発

「KAITO Camera」「KAITO Recorder」に続く新ラインナップ製品の企画、検討を行なっています。また、新たなOEM提供の検討を引き続き行っています。

#### Any3シリーズの研究・開発

Windows タブレット向けのビジネスアプリ「Any3 for Office 365」については、今後のエンハンスを行わない方針としました。先期にリリースしたSurface Hub向けアプリ「Any3 FileExplorer」については引き続きバージョンアップ対応を実施しています。

#### 「Beacapp」の研究・開発

ビーコン端末を利用した位置情報活用クラウドサービス「Beacapp」をベースとしたソリューション群の企画、検討を行なっています。工場や建設現場における、人・物の所在管理を行うソリューションを中心に実証実験を重ね、商材化に向けた検討を行なっています。

#### 「スマートファクトリー」の研究・開発

製造プロセスにてIoTを活用し、生産システムの高度化をめざす取組として「スマートファクトリー」の研究・開発を日本能率協会コンサルティングと共同で進めています。

各種センサーを利用した人の作業分析の研究・開発・実証実験を引き続き実施しています。

#### モバイル向けシステム開発の新規サービス「Lay App/Grow Apps」をリリース

先期より検討を行っていた成長するモバイルアプリ開発を支援するサービス「Lay App/Grow Apps」のサービス内容を決定し、販促を開始しました。

現状の情報システムの関連構造を可視化・影響分析ソリューションを活用しIT資産の評価とITシステムの再構築（モダナイゼーション）プログラムの研究・開発

現状の情報システムを機能させている全てのデータ要素（ハード、ソフト、アプリケーションプログラム、ネットワーク、人・組織、製品、取引先、関連する外部要素など）メタデータ化し、リポジトリとして保持することで、全てのメタデータの関連構造を分析できる技術を活用した商品開発です。システム再構築リスクの軽減や保守開発・運用コストの低減などの課題解決のために、現状システム実態を可視化・影響分析し、現状システムの再構築を成功に導くためのツールとして実践事例を技術化しています。

実施事例として、京都市役所の情報システム再構築プロジェクトの支援をすべく、産総研（AIST）フレームワークの技術を拡張開発し、現状システムからの移行に伴うリスクを最小にするための可視化・影響分析に採用され実施しております。

また、集計・影響分析の必要性から無秩序に活用・氾濫している利便性の高いエクセル（Excel）データを統合でき、要件に沿ったシミュレーションが可能なツール（Jedox）を導入しております。

大手自動車メーカーのファイナンス会社におけるサイバーセキュリティ防護に対する組織能力を高める諸対策とマニュアルを作成し実施・運用マニュアル作成案件を継続して受注し、サイバーセキュリティ領域における商品開発を実施しました。

顧客の情報システム化の適正支援のためのRFI・RFP作成・適用技術の開発を行い、最適なベンダー選定支援プログラムとして導入実績を作ることができました。

以上の研究開発に伴う研究開発費用は135,729千円です。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資については、データベースの充実や、賃貸用建物のメンテナンス等を目的とした設備投資を継続的に実施しております。

当連結会計年度の設備投資の総額は、3,178,971千円であり、セグメントごとの設備投資について示すと、次のとおりであります。なお、有形固定資産のほか、無形固定資産への投資を含めて記載しております。

##### (1) シンクタンク・コンサルティング事業

当連結会計年度の主な設備投資は、業務用ソフトウェア更新を中心とする総額159,158千円の投資を実施しました。

なお、重要な設備の除却又は売却はありません。

##### (2) ITソリューション事業

当連結会計年度の主な設備投資は、サーバーやコンピューターの更新中心に39,802千円の投資を実施しました。

なお、重要な設備の除却又は売却はありません。

##### (3) 不動産賃貸事業

当連結会計年度の主な設備投資は、賃貸用建物の大改修を中心とする総額2,980,010千円の投資を実施しました。

なお、重要な設備の除却又は売却はありません。

## 2 【主要な設備の状況】

## (1) 提出会社

平成30年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)							従業員数 (名)
			建物	構築物	土地 (面積㎡)	工具器具 及び備品	建設 仮勘定	ソフト ウェア	合計	
本社 (東京都港区)	不動産賃貸 事業	事務所設備 賃貸用設備	4,409,024	54,468	125,541 (1630.54)	226,646	-	50,363	4,866,045	5 [ - ]

(注1) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

(注2) 「従業員数」の [ ] 内には、臨時従業員の年間平均人員数を外書きで記載しています。

## (2) 国内子会社

平成30年3月31日現在

会社名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)							従業員数 (名)
			建物 及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	工具器具 及び 備品	土地 (面積㎡)	リース 資産	ソフト ウェア	合計	
(株)ジェーエムエーシ ステムズ (東京都港区)	ITソリュー ション事業	事務所用 設備	56,233	-	34,442	695 (893.00)	33,343	25,904	150,618	364 [ 11 ]
(株)日本能率協会コン サルティング (東京都千代田区)	シンクタン ク・コンサル ティング 事業	事務所用 設備	3,861	-	28,673	-	15,302	13,035	60,873	211 [ 5 ]
(株)日本能率協会総合 研究所 (東京都港区)	シンクタン ク・コンサル ティング 事業	事務所用 設備	10,321	-	65,345	-	-	127,970	203,637	132 [ 63 ]

(注1) 現在休止中の主要な設備はありません。

(注2) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

(注3) 「従業員数」の [ ] 内には、臨時従業員の年間平均人員数を外書きで記載しています。

### 3 【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資計画については、投資効率、業界動向、景気予測等を総合的に勘案して作成しております。設備投資計画は、原則的に連結会社各社が個別に策定しておりますが、計画策定にあたっては、当社がグループ全体の調整を図っております。

なお、平成30年3月31日現在における重要な設備の新設、除却の計画はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	2,000,000
甲種類株式	100,000
乙種類株式	200
計	2,100,200

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末 現在発行数(株) (平成30年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年6月25日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
甲種類株式	38,906	38,906	非上場・非登録	単元株式数 1株 (注2, 3, 5)
乙種類株式	76	76	非上場・非登録	単元株式数 1株 (注2, 4)
計	38,982	38,982	-	-

(注1) 当社は普通株式、甲種類株式及び乙種類株式の異なる種類の株式を定款に定めております。

(注2) 甲種類株式及び乙種類株式は譲渡制限株式であり、これを譲渡により取得するには取締役会の承認が必要になります。

(注3) 甲種類株式の内容は次のとおりであり、特に定めがない点については普通株式と同一の内容であります。

#### 1. 株主総会の議決権

甲種類株式を有する株主(以下「甲種類株主」という。)は、株主総会において議決権を行使することができない。

#### 2. 取得条項

) 当社は、当社が別に定める日が到来したときに、当社の甲種類株式を取得することができる。

) 前項の定めにより当社が甲種類株式を取得する場合の対価は金銭とする。

) 前項に定める金銭の額は、甲種類株式1株につき5万円とする。

#### 3. 取得請求権

) 甲種類株主は、当社に対し、いつでも甲種類株式の取得を請求することができる。

) 前項の定めにより当社が甲種類株式を取得する場合の対価は金銭とする。

) 前項に定める金銭の額は、甲種類株式1株につき5万円とする。

#### 4. 種類株主総会の決議

甲種類株式については、会社法第199条第4項、同法第238条第4項及び同法第322条第1項の規定による種類株主総会の決議を要しない。

(注4) 乙種類株式の内容は次のとおりであり、特に定めがない点については普通株式と同一の内容であります。

1. 剰余金の配当

当社は、乙種類株式を有する株主（以下「乙種類株主」という。）に対しては剰余金の配当を行わない。

2. 残余財産の分配

）当社の残余財産を分配するときは、乙種類株主に対し、乙種類株式1株につき金5万円を支払う。

）乙種類株主に対しては、前項の他、残余財産の分配を行わない。

3. 取得条項

）当社は、当社が別に定める日が到来したときに、当社の乙種類株式を取得することができる。

）前項の定めにより当社が乙種類株式を取得する場合の対価は金銭とする。

）前項に定める金銭の額は、乙種類株式1株につき5万円とする。

4. 種類株主総会の決議

乙種類株式については、会社法第199条第4項、同法第238条第4項及び同法第322条第1項の規定による種類株主総会の決議を要しない。

(注5) 甲種類株式の発行済株式数には、当社に対する金銭債権の現物出資による発行株式1,705株（85,250千円）が含まれております。

(注6) 定款において、会社法第322条第2項に関する定めはしておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成23年9月1日 (注1)	25,839	38,982	-	500,000	-	-

(注1) 平成23年6月17日開催の取締役会決議に基づき、普通株式（自己株式）の全株を消却したものであります。

## (5) 【所有者別状況】

## 甲種類株式

平成30年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1株)							単元未満 株式の状況 (株)	
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他		計
					個人以外	個人			
株主数 (人)	-	-	-	-	-	-	233	233	-
所有株式数 (単元)	-	-	-	-	-	-	38,906	38,906	-
所有株式数 の割合(%)	-	-	-	-	-	-	100.0	100.0	-

(注) 当社が保有する自己株式35,271株は「個人その他」に含めて記載しております。

## 乙種類株式

平成30年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1株)							単元未満 株式の状況 (株)	
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他		計
					個人以外	個人			
株主数 (人)	-	-	-	-	-	-	18	18	-
所有株式数 (単元)	-	-	-	-	-	-	76	76	-
所有株式数 の割合(%)	-	-	-	-	-	-	100.0	100.0	-

(注) 当社が保有する自己株式28株は「個人その他」に含めて記載しております。



## (6) 【大株主の状況】

平成30年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を除く。) の総数に対する所有 株式数の割合(%)
丸尾 健司	埼玉県越谷市	207	5.62
加藤 文昭	千葉県柏市	155	4.21
小島 厚	千葉县市川市	105	2.85
坂倉 猛	神奈川県川崎市高津区	103	2.80
譲原 正昭	埼玉県朝霞市	83	2.25
森山 直樹	東京都府中市	82	2.23
中川 久方	東京都港区	82	2.23
鈴木 亨	埼玉県さいたま市浦和区	63	1.71
石川 浩一	東京都足立区	62	1.68
近藤 慶太	東京都練馬区	62	1.68
計	-	1,004	27.26

(注1) 上記のほか、当社所有の自己株式(甲種類株式35,271株及び乙種類株式28株)があり、その発行済株式総数に対する割合は90.55%であります。

(注2) 発行済株式総数は、甲種類株式及び乙種類株式の合計の株式数であります。

なお、所有株式に係る議決権の個数の多い順上位は、以下のとおりであります。

平成30年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有議決権数 (個)	総株主の議決権に 対する所有議決権数の 割合(%)
丸尾 健司	埼玉県越谷市	7	14.58
小島 厚	千葉县市川市	5	10.42
長谷川 隆	東京都中央区	5	10.42
加藤 文昭	千葉県柏市	5	10.42
坂倉 猛	神奈川県川崎市高津区	3	6.25
鈴木 亨	埼玉県さいたま市浦和区	3	6.25
森山 直樹	埼玉県朝霞市	3	6.25
中川 久方	東京都港区	2	4.17
石川 浩一	東京都足立区	2	4.17
森山 直樹	東京都府中市	2	4.17
横田 正伸	東京都足立区	2	4.17
武中 和昭	埼玉県川越市	2	4.17
近藤 慶太	東京都練馬区	2	4.17
計		43	89.58

## (7) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成30年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	甲種類株式 38,906	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 乙種類株式 28	-	-
完全議決権株式(その他)	乙種類株式 48	48	-
単元未満株式	-	-	-
発行済株式総数	38,982	-	-
総株主の議決権	-	48	-

(注) 無議決権株式のうち、35,271株を当社が保有しております。

## 【自己株式等】

平成30年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社JMAホールディングス	東京都港区芝公園 三丁目1番22号	乙種類株式 28	-	乙種類株式 28	乙種類株式 36.84
計	-	乙種類株式 28	-	乙種類株式 28	乙種類株式 36.84

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号による甲種類株式、および乙種類株式

### (1) 【株主総会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
株主総会(平成29年6月23日)での決議状況 (取得期間 平成29年6月23日～平成30年6月22日)	甲種類株式 1,000	50,000,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式 (平成29年4月1日～平成30年3月31日)	甲種類株式 -	-
残存授権株式の総数及び価額の総額	甲種類株式 1,000	50,000,000
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	100.0	100.0
当期間における取得自己株式	-	-
提出日現在の未行使割合(%)	100.0	100.0

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
株主総会(平成29年6月23日)での決議状況 (取得期間 平成29年6月23日～平成30年6月22日)	乙種類株式 20	1,000,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式 (平成29年4月1日～平成30年3月31日)	乙種類株式 -	-
残存授権株式の総数及び価額の総額	乙種類株式 20	1,000,000
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	100.0	100.0
当期間における取得自己株式	-	-
提出日現在の未行使割合(%)	100.0	100.0

### (2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他(注)	甲種類株式 85 乙種類株式 3	6,107,456 150,000	-	-
保有自己株式数	甲種類株式 35,271 乙種類株式 28	-	甲種類株式 35,271 乙種類株式 28	-

(注) 株主の売渡請求による売渡であります。

3 【配当政策】

当社は、社会の発展と価値創造への貢献を実現しつつ、企業価値の継続的な向上がもっとも重要な株主還元と考えています。剰余金の配当につきましては、長期的な事業発展のための内部留保の充実に留意しつつ、安定的な配当を継続的に行うことを基本方針としています。

内部留保資金につきましては、事業拡大、設備投資、新規事業開発、生産性向上、品質向上等を目的とした設備投資及び研究開発投資ならびに人材育成投資の原資とし、今後の事業発展に活用していきたいと考えております。また、資本効率の向上、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の一環として自己の株式の取得に充当することがあります。

当社は、年1回、期末配当として剰余金の配当を行うこととしております。また剰余金の配当の決定機関は株主総会であります。当事業年度の剰余金の配当につきましては、甲種類株式の1株当たり年間5,000円としております。当社は今後におきましても、利益配当の継続的实施に向けて取り組んでまいります。

当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
平成30年6月22日 定時株主総会	18,175	5,000

4 【株価の推移】

当社株式は、非上場でありますので、該当事項はありません。

## 5 【役員の状況】

男性6名 女性0名（役員のうち女性の比率0%）

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 社長	-	加藤 文昭	昭和23年11月6日	昭和45年4月 昭和59年4月 平成11年6月 平成23年6月 平成23年6月 平成24年6月 平成28年4月 平成29年6月 平成30年6月 (社)日本能率協会入職 (株)日本能率協会総合研究所転籍 同社取締役 同社代表取締役社長 当社取締役 (公益社団法人)企業情報化協会常 任理事(現任) (一般社団法人)JMAメンタル ヘルス研究所理事(現任) 当社取締役副社長 当社代表取締役社長(現任)	(注1)	甲種類 株式 150 乙種類 株式 7
取締役	-	鈴木 亨	昭和30年9月6日	昭和61年8月 平成21年6月 平成25年3月 平成25年6月 平成25年6月 平成28年4月 (株)日本能率協会コンサルティング 入社 同社取締役 (株)日本能率協会コンサルティング 代表取締役社長(現任) 当社取締役(現任) (公益社団法人)企業情報化協会常 任理事(現任) (一般社団法人)JMAメンタル ヘルス研究所理事(現任)	(注1)	甲種類 株式 60 乙種類 株式 3
取締役	-	坂倉 猛	昭和37年11月29日	昭和61年4月 平成20年6月 平成23年6月 平成26年6月 平成28年6月 平成29年6月 (株)ジェーエムエーシステムズ入社 同社取締役 同社常務取締役 同社専務取締役 同社代表取締役社長(現任) 当社取締役(現任)	(注1)	甲種類 株式 100 乙種類 株式 3
取締役	-	譲原 正昭	昭和35年6月15日	平成8年8月 平成24年4月 平成26年6月 平成28年6月 平成29年6月 平成29年6月 (株)日本能率協会総合研究所入社 同社執行役員民間調査研究本部本 部長 同社取締役 同社常務取締役 同社代表取締役社長(現任) 当社取締役(現任)	(注1)	甲種類 株式 80 乙種類 株式 3
取締役	-	藤枝 宏幸	昭和37年1月24日	平成23年7月 平成25年10月 平成28年4月 平成28年4月 平成30年6月 当社入社 管理本部マネジャー 当社管理本部部長 当社事業・管理本部副本部長 (一般社団法人)JMAメンタル ヘルス研究所監事(現任) 当社取締役 事業・管理本部本 部長(現任)	(注1)	甲種類 株式 20 乙種類 株式 1
監査役	-	戸張 眞	昭和24年2月25日	昭和54年9月 昭和55年4月 平成15年6月 平成20年5月 平成23年6月 (社)日本能率協会入職 (株)日本能率協会コンサルティング 転籍 同社取締役 (公益社団法人)全日本能率連盟専 務理事 当社監査役(現任)	(注2)	甲種類 株式 20
計						甲種類 株式 430 乙種類 株式 17

(注1) 取締役の任期は、平成30年3月期に係る株主総会終結の時から平成32年3月期に係る株主総会終結の時までであります。

(注2) 監査役の任期は、平成27年3月期に係る株主総会終結の時から平成31年3月期に係る株主総会終結の時までであります。

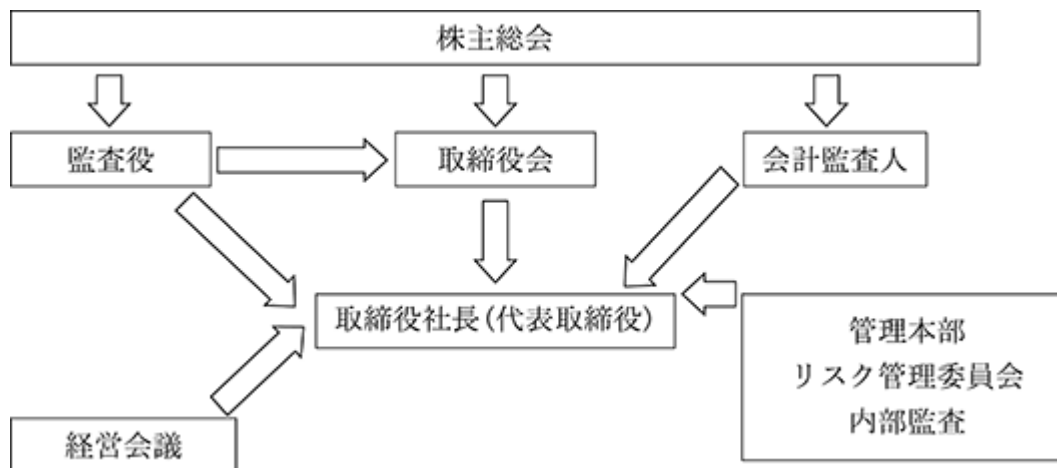
## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、経営の健全性、透明性および迅速性を高めることを通じて、企業価値の最大化を図ることが重要であると考えており、コーポレート・ガバナンスの確立を経営上の重要課題と認識し、その強化に努めております。

会社の機関の内容



#### イ．取締役会

当社の取締役会は、取締役5名、監査役1名で構成され、原則として3ヶ月に1度開催しております。当社取締役会では、会社の運営に関し様々な検討がなされ、意思決定されております。

#### ロ．経営会議

経営会議は、毎月1回開催され、取締役5名、事業本部長、事業部長をメンバーとしてグループ全体での課題・改善・問題点を様々な方面から検討し、行動計画の策定、実行報告、評価、改善計画及び実施が行われております。

#### ハ．監査役監査及び内部監査の状況

当社の監査役は、取締役会他の重要な会議に参加し、意見を述べるだけでなく、社長や常務会メンバーと定期的に情報交流を図る体制をとっております。またグループ各社の監査役や内部統制担当者と定期的に情報交流・意見交換を持ち、グループ全体の統制・監督機能の強化に努めております。

内部監査は、当社の管理本部（2名）がグループ全体の業務及び経理について指導とチェックを日常的に行っております。また、グループ各社の内部監査部門とも必要に応じて連絡調整を行っております。

#### ニ．会計監査人

会計監査人は第三者としての立場から財務諸表監査を実施し、当社は監査結果の報告並びに意見交換・改善などの提言を受けております。また、重要な会計的課題についても相談し、助言を得ております。会計監査人は、監査役に対し監査結果を報告し、情報交換を積極的に行っております。当社の会計監査業務を執行した公認会計士は、青南監査法人の齋藤敏雄氏、大野木猛氏の2名であり、当社の会計監査業務に係わる補助者は、公認会計士11名となっております。

内部統制システム及びリスク管理体制の整備の状況

当社では、グループ全体の内部統制の充実を図るため、管理本部において、各グループ会社と連携しグループ内部統制システムの整備と運用を行っております。

リスク管理についても管理本部にリスクマネジメント委員会を設置し、各グループ会社のリスクマネジメント業務を統括し、リスクマネジメントの基本方針、推進体制その他重要事項を決定しております。

役員の報酬等

当事業年度における当社の取締役及び監査役に対する役員報酬は以下のとおりであります。

役員区分	報酬等の総額	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる役員の員数(人)
		基本報酬	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	50,500	34,500	16,000		3
監査役 (社外監査役を除く。)	3,600	3,600	-	-	1
社外役員	-	-	-	-	4

(注1) 取締役の報酬限度額は、平成20年6月25日定時株主総会において年額1億円以内と決議しております。

議決権制限株式

当社グループは、常に中立的立場に立ち、社会・産業界の健全なる発展に寄与していくという基本理念から、原則として外部の資本参加を求めないこととしております。そのため、当社グループの役員・従業員を対象とした議決権のない甲種株式と、当社グループの役員を対象とした経営を重視した配当のない乙種株式を発行しております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	19,500	-	20,500	-
連結子会社	-	-	-	-
計	19,500	-	20,500	-

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、監査報酬は、監査日数・事業の規模等を勘案し、監査役の同意を得た上で、取締役会の決議により決定しております。

## 第5 【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成していません。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)及び事業年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の連結財務諸表及び財務諸表について、青南監査法人の監査を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、連結財務諸表等を適正に作成できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構への加入を検討しております。また、決算前に会計処理の方法や会計基準等の変更等に関して監査法人と綿密な事前協議を実施しております。



1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (平成30年 3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	9,046,980	8,267,995
受取手形及び売掛金	4,235,207	4,481,797
有価証券	808,748	211,404
繰延税金資産	237,684	321,569
その他	331,321	786,099
貸倒引当金	52,222	42,148
流動資産合計	14,607,719	14,026,718
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	154,643	3 4,527,519
機械、運搬具及び工具器具備品（純額）	91,193	363,827
建設仮勘定	1,742,820	-
その他（純額）	3 164,183	3 157,879
有形固定資産合計	1 2,152,840	1 5,049,226
無形固定資産		
ソフトウェア	134,498	168,030
その他	3,062	28,678
無形固定資産合計	137,561	196,708
投資その他の資産		
投資有価証券	2 4,861,090	2 5,282,332
長期貸付金	26,869	22,430
繰延税金資産	1,392,522	1,265,738
その他	814,588	798,289
貸倒引当金	1,230	-
投資その他の資産合計	7,093,841	7,368,790
固定資産合計	9,384,243	12,614,725
資産合計	23,991,962	26,641,443
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	725,162	626,285
短期借入金	85,535	3 372,399
未払法人税等	302,744	103,725
賞与引当金	295,267	361,451
役員賞与引当金	52,395	39,857
その他	1,790,101	2,036,285
流動負債合計	3,251,206	3,540,004
固定負債		
長期借入金	3 1,039,332	3 3,202,295
退職給付に係る負債	4,217,858	4,343,408
役員退職慰労引当金	419,724	386,807
その他	465,794	180,204
固定負債合計	6,142,709	8,112,715
負債合計	9,393,916	11,652,720
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	500,000	500,000
資本剰余金	9,391,036	9,389,178

利益剰余金	6,923,321	7,344,413
自己株式	2,541,964	2,535,706
株主資本合計	14,272,393	14,697,885
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	153,664	173,605
為替換算調整勘定	77,879	98,905
退職給付に係る調整累計額	30,612	15,306
その他の包括利益累計額合計	262,155	287,817
非支配株主持分	63,497	3,020
純資産合計	14,598,046	14,988,723
負債純資産合計	23,991,962	26,641,443

## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
売上高	20,333,883	19,809,165
売上原価	15,297,442	14,697,701
売上総利益	5,036,441	5,111,463
販売費及び一般管理費	1, 2 4,095,632	1, 2 4,783,129
営業利益	940,808	328,334
営業外収益		
受取利息	42,994	37,246
受取配当金	10,430	9,526
受取事務手数料	3,059	3,108
持分法による投資利益	274,319	365,966
その他	6,088	3,948
営業外収益合計	336,892	419,796
営業外費用		
支払利息	8,383	7,876
為替差損	10,236	7,528
リース解約損	2,719	-
その他	3,498	-
営業外費用合計	24,838	15,405
経常利益	1,252,862	732,725
特別利益		
固定資産売却益	3 23	3 324
補助金収入	-	75,000
関係会社株式売却益	-	8,750
投資有価証券売却益	-	10,000
特別利益合計	23	94,074
特別損失		
固定資産除却損	4 12,192	4 4,335
事務所移転費用	12,942	193,233
関係会社株式売却損	40,920	-
投資有価証券評価損	14,477	-
会員権評価損	-	4,270
特別損失合計	80,532	201,839
税金等調整前当期純利益	1,172,353	624,960
法人税、住民税及び事業税	412,982	106,344
法人税等調整額	31,453	39,802
法人税等合計	444,435	146,146
当期純利益	727,917	478,813
非支配株主に帰属する当期純利益又は非支配株主に 帰属する当期純損失( )	2,602	6,521
親会社株主に帰属する当期純利益	725,315	485,334

## 【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
当期純利益	727,917	478,813
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	17,057	21,517
為替換算調整勘定	25,263	21,026
退職給付に係る調整額	15,306	15,306
持分法適用会社に対する持分相当額	6,184	1,576
その他の包括利益合計	1 29,696	1 25,661
包括利益	698,221	504,474
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	695,906	510,861
非支配株主に係る包括利益	2,315	6,387

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	500,000	9,394,756	6,078,785	2,551,684	13,421,857
会計方針の変更による累積的影響額			116,730		116,730
会計方針の変更を反映した当期首残高	500,000	9,394,756	6,195,515	2,551,684	13,538,587
当期変動額					
自己株式の取得				2,550	2,550
自己株式の処分		3,720		12,270	8,550
連結範囲の変動			19,640		19,640
剰余金の配当			17,150		17,150
親会社株主に帰属する当期純利益			725,315		725,315
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	3,720	727,806	9,720	733,806
当期末残高	500,000	9,391,036	6,923,321	2,541,964	14,272,393

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	142,791	103,142	45,918	291,851	62,367	13,776,076
会計方針の変更による累積的影響額						116,730
会計方針の変更を反映した当期首残高	142,791	103,142	45,918	291,851	62,367	13,892,806
当期変動額						
自己株式の取得						2,550
自己株式の処分						8,550
連結範囲の変動						19,640
剰余金の配当						17,150
親会社株主に帰属する当期純利益						725,315
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	10,872	25,263	15,306	29,696	1,130	28,565
当期変動額合計	10,872	25,263	15,306	29,696	1,130	705,240
当期末残高	153,664	77,879	30,612	262,155	63,497	14,598,046

当連結会計年度(自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	500,000	9,391,036	6,923,321	2,541,964	14,272,393
会計方針の変更による累積的影響額			-		-
会計方針の変更を反映した当期首残高	500,000	9,391,036	6,923,321	2,541,964	14,272,393
当期変動額					
自己株式の取得					-
自己株式の処分		1,857		6,257	4,400
連結範囲の変動			46,493		46,493
剰余金の配当			17,750		17,750
親会社株主に帰属する当期純利益			485,334		485,334
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	1,857	421,091	6,257	425,491
当期末残高	500,000	9,389,178	7,344,413	2,535,706	14,697,885

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	153,664	77,879	30,612	262,155	63,497	14,598,046
会計方針の変更による累積的影響額						-
会計方針の変更を反映した当期首残高	153,664	77,879	30,612	262,155	63,497	14,598,046
当期変動額						
自己株式の取得						-
自己株式の処分						4,400
連結範囲の変動						46,493
剰余金の配当						17,750
親会社株主に帰属する当期純利益						485,334
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	19,941	21,026	15,306	25,661	60,476	34,815
当期変動額合計	19,941	21,026	15,306	25,661	60,476	390,676
当期末残高	173,605	98,905	15,306	287,817	3,020	14,988,723

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	1,172,353	624,960
減価償却費	320,595	316,016
貸倒引当金の増減額(は減少)	9,789	11,304
賞与引当金の増減額(は減少)	23,064	66,183
役員賞与引当金の増減額(は減少)	1,705	10,738
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	53,237	103,488
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	16,433	32,916
受取利息及び受取配当金	53,425	46,772
支払利息	8,383	7,876
固定資産処分損益(は益)	12,169	4,011
関係会社株式売却損益(は益)	40,920	8,750
持分法による投資損益(は益)	250,119	365,966
有価証券及び投資有価証券評価損益(は益)	14,477	-
補助金収入	-	75,000
投資有価証券売却損益(は益)	-	10,000
売上債権の増減額(は増加)	535,952	243,306
たな卸資産の増減額(は増加)	160,725	5,290
仕入債務の増減額(は減少)	41,825	94,407
未収入金の増減額(は増加)	38,397	544,190
未払金の増減額(は減少)	54,870	54,561
未払費用の増減額(は減少)	86,089	129,185
未払消費税等の増減額(は減少)	49,527	11,042
預り金の増減額(は減少)	256,728	68,401
その他	70,410	120,003
小計	589,895	35,004
利息及び配当金の受取額	65,644	54,311
利息の支払額	8,383	7,876
法人税等の支払額	393,327	291,167
営業活動によるキャッシュ・フロー	253,828	209,727
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の増減額(は増加)	49,995	1
有形固定資産の取得による支出	1,925,881	3,165,504
有形固定資産の売却による収入	12,606	811
無形固定資産の取得による支出	45,789	125,133
投資有価証券の取得による支出	1,068,877	287,017
補助金による収入	-	75,000
出資金の払込による支出	50,000	-
投資有価証券の売却による収入	32,892	10,000
投資有価証券の償還による収入	600,000	815,360
貸付けによる支出	750	2,824
貸付金の回収による収入	736,279	7,451
預り保証金の返還による支出	-	288,253
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	-	76,804
その他	6,310	25,328
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,665,833	3,011,587
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	8,648	8,794
長期借入れによる収入	1,000,000	2,501,377
長期借入金の返済による支出	77,028	42,755
自己株式の取得による支出	2,550	-

自己株式の売却による収入	8,550	4,400
配当金の支払額	17,150	17,750
非支配株主への配当金の支払額	1,471	2,211
その他	14,035	7,690
財務活動によるキャッシュ・フロー	904,963	2,426,574
現金及び現金同等物に係る換算差額	15,092	15,752
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	522,134	778,987
現金及び現金同等物の期首残高	9,517,946	8,995,811
現金及び現金同等物の期末残高	1 8,995,811	1 8,216,824



【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 9社

(2) 連結子会社の名称

株式会社ジェーエムエーシステムズ  
株式会社日本能率協会コンサルティング  
株式会社日本能率協会総合研究所  
株式会社クロスオーバー  
JMA Consultants Europe S.p.A.  
捷勵克日能諮詢(上海)有限公司  
JMA Consultants (Thailand) Co.,Ltd.  
韓国JMAC株式会社  
邦捷管理諮詢(上海)有限公司

前連結会計年度において連結子会社であった株式会社 フューチャーマネジメントアンドイノベーションコンサルティングは、保有株式の売却に伴い、連結の範囲から除外しており、その連結除外時までの損益計算書を連結しております。

(3) 非連結子会社の数 1社

非連結子会社名 一般社団法人JMAメンタルヘルス研究所

連結の範囲から除いた理由

非連結子会社は、小規模であり、総資産、売上高、純利益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した関連会社数 1社

株式会社日本能率協会マネジメントセンター

(2) 持分法を適用した非連結子会社数 0社

(3) 持分法を適用しない関連会社数 0社

(4) 持分法を適用しない非連結子会社数 1社

非連結子会社名 一般社団法人JMAメンタルヘルス研究所

持分法を適用しない理由

持分法を適用していない非連結子会社は、純利益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等から見て、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

(5) 持分法適用会社である株式会社日本能率協会マネジメントセンターは決算日が6月30日であるため、3月末日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、JMA Consultants Europe S.p.A.、捷勵克日能諮詢(上海)有限公司、JMA Consultants (Thailand) Co.,Ltd.、韓国JMAC株式会社、邦捷管理諮詢(上海)有限公司の決算日は、12月31日であります。連結財務諸表の作成にあたっては、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については連結上必要な調整を行っております。

#### 4 会計方針に関する事項

##### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

###### 有価証券

###### (イ) 満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）

###### (ロ) その他有価証券

###### 時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

###### 時価のないもの

移動平均法による原価法

###### デリバティブ

###### 時価法

###### たな卸資産

主として個別法又は総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）により評価しております。

##### (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

###### 有形固定資産（リース資産を除く）

主として定率法によっております。ただし、当社及び国内連結子会社が平成10年4月1日以降に取得した建物（建物付属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物付属設備及び構築物については定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 3年～50年

機械、運搬具及び工具器具備品 3年～15年

###### 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を、市場販売目的のソフトウェアについては、見込販売数量に基づく償却額と見込販売可能期間（原則3年）に基づく均等配分額とを比較し、何れか大きい額を償却する方法を採用しております。

###### リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

##### (3) 重要な引当金の計上基準

###### 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

###### 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、当連結会計年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

###### 役員賞与引当金

役員に対する賞与の支給に備えるため、当連結会計年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

###### 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

従業員の退職に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務の額を退職給付に係る負債として計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異および過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の翌期から従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、発生時の連結会計年度に全額費用処理しております。

簡便法の採用

当社及び一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

売上高及び売上原価の計上基準

当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められるプロジェクトについては工事進行基準（プロジェクトの進捗率の見積もりは原価比例法）を、その他のプロジェクトについては工事完成基準を適用しております。

(6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、当該子会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めて計上しております。

(7) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

特例処理の要件を満たした金利スワップについては、特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

（ヘッジ手段）

金利スワップ

（ヘッジ対象）

借入金

ヘッジ方針

当社グループは、借入金等の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っており、ヘッジ対象の識別は個別契約ごとに行っております。

ヘッジ有効性評価の方法

金利スワップは特例処理によっているため有効性の評価を省略しております。

(8) のれんの償却方法及び償却期間

主として5年間で均等償却を行っております。

(9) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日又は償還日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない短期的な投資であります。

(10) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税及び地方消費税の会計処理

税抜き方式によっております。

連結納税制度の適用

当社及び一部の国内連結子会社は、当社を連結納税親会社とした連結納税制度を適用しております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

前連結会計年度において、「有形固定資産」の「その他」に含めておりました「機械、運搬具及び工具器具備品」は、重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替を行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において「有形固定資産」の「その他」に表示していた255,376千円は、「機械、運搬具及び工具器具備品」91,193千円、「その他」164,183千円として組み替えております。

(連結貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
有形固定資産の減価償却累計額	2,894,597千円	549,696千円

2 関連会社に対するものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
投資有価証券(株式)	1,930,276千円	2,270,467千円

3 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産及び担保付債務は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
建物及び構築物	-千円	4,463,493千円
有形固定資産その他	125,541千円	125,541千円
計	125,541千円	4,589,035千円

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
短期借入金	-千円	300,000千円
長期借入金	1,000,000千円	3,200,000千円
計	1,000,000千円	3,500,000千円

(連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
給与	973,177千円	1,071,050千円
地代家賃	188,265千円	390,759千円
貸倒引当金繰入額	543千円	2,481千円
賞与引当金繰入額	288,297千円	361,451千円
退職給付費用	69,537千円	133,243千円
役員退職慰労引当金繰入額	33,933千円	40,480千円
役員賞与引当金繰入額	52,395千円	39,857千円

2 一般管理費に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
	225,893千円	253,360千円

3 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
機械、運搬具及び工具器具備品	23千円	324千円
計	23千円	324千円

4 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
建物及び構築物	4,175千円	567千円
機械、運搬具及び工具器具備品	5,005千円	3,768千円
ソフトウェア	3,011千円	0千円
計	12,192千円	4,335千円

(連結包括利益計算書関係)

## 1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	31,522千円	24,364千円
組替調整額	- 千円	- 千円
税効果調整前	31,522千円	24,364千円
税効果額	14,464千円	2,846千円
その他有価証券評価差額金	17,057千円	21,517千円
為替換算調整勘定		
当期発生額	21,362千円	21,026千円
組替調整額	3,900千円	- 千円
為替換算調整勘定	25,263千円	21,026千円
退職給付に係る調整累計額		
当期発生額	- 千円	- 千円
組替調整額	22,061千円	22,061千円
税効果調整前	22,061千円	22,061千円
税効果額	6,755千円	6,755千円
退職給付に係る調整累計額	15,306千円	15,306千円
持分法適用会社に対する持分相当額		
当期発生額	6,184千円	1,576千円
持分法適用会社に対する持分相当額	6,184千円	1,576千円
その他の包括利益合計	29,696千円	25,661千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	-	-	-	-
甲種類株式(株)	38,906	-	-	38,906
乙種類株式(株)	76	-	-	76
合計(株)	38,982	-	-	38,982

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	-	-	-	-
甲種類株式(株)	35,476	50	170	35,356
乙種類株式(株)	31	1	1	31
合計(株)	35,507	51	171	35,387

(変動事由の概要)

甲種類株式 株主総会決議による自己株式の取得による増加 50株

甲種類株式 株主総会決議による自己株式の処分による減少 170株

乙種類株式 株主総会決議による自己株式の取得による増加 1株

乙種類株式 株主総会決議による自己株式の処分による減少 1株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年6月24日 定時株主総会	甲種類株式	17,150	5,000	平成28年3月31日	平成28年6月27日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年6月23日 定時株主総会	甲種類株式	利益剰余金	17,750	5,000	平成29年3月31日	平成29年6月26日



当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	-	-	-	-
甲種類株式(株)	38,906	-	-	38,906
乙種類株式(株)	76	-	-	76
合計(株)	38,982	-	-	38,982

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	-	-	-	-
甲種類株式(株)	35,356	-	85	35,271
乙種類株式(株)	31	-	3	28
合計(株)	35,387	-	88	35,299

(変動事由の概要)

甲種類株式 株主総会決議による自己株式の取得による増加 - 株  
 甲種類株式 株主総会決議による自己株式の処分による減少 85株  
 乙種類株式 株主総会決議による自己株式の取得による増加 - 株  
 乙種類株式 株主総会決議による自己株式の処分による減少 3株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年6月23日 定時株主総会	甲種類株式	17,750	5,000	平成29年3月31日	平成29年6月26日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成30年6月22日 定時株主総会	甲種類株式	利益剰余金	18,175	5,000	平成30年3月31日	平成30年6月25日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
現金及び預金	9,046,980千円	8,267,995千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	51,169千円	51,170千円
現金及び現金同等物	8,995,811千円	8,216,824千円

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

内容の重要性が乏しく、また契約一件当たりの金額が少額のため、記載を省略しております。

2. オペレーティング・リース取引

(借主側)

オペレーティング・リースのうち解約不能のものに係る未経過リース料

	(平成29年3月31日現在)	(平成30年3月31日現在)
1年内	652,333千円	- 千円
1年超	- 千円	- 千円
合計	652,333千円	- 千円

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取り組み方針

当社グループは、資金運用については安全性の高い金融資産で運用し、資金調達については銀行等金融機関から調達しております。デリバティブは、主にリスクヘッジ目的で利用しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、取引先の信用リスクに晒されていますが、回収までの期間はおおむね短期であり、貸倒実績率は低いものとなっています。当該リスクについては、取引先ごとに期日及び残高を管理するとともに、取引先の状況をモニタリングし、財務状況の悪化等を把握したときは速やかに対応するなどリスク軽減に努めております。

投資有価証券は、主に満期保有目的の債券及び業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されています。当該リスクに関して、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握し、リスク軽減に努めております。

営業債務である支払手形及び買掛金は支払までの期間は概ね短期であります。

デリバティブ取引は、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジを目的とした金利スワップ取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」の「4 会計方針に関する事項」に記載されている「(7) 重要なヘッジ会計の方法」をご参照下さい。なお、デリバティブの利用にあたっては、信用リスクを軽減するために、信用度の高い金融機関に限定して取引を行っております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

また、「デリバティブ取引関係」注記におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません( (注2) を参照下さい。 )。

前連結会計年度(平成29年3月31日)

(単位:千円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預金	9,046,980	9,046,980	-
(2)受取手形及び売掛金	4,235,207	4,235,207	-
(3)有価証券及び投資有価証券	3,575,440	3,631,260	55,820
満期保有目的の債券	3,261,879	3,317,700	55,820
その他有価証券	313,560	313,560	-
資産計	16,857,628	16,913,449	55,820
(1)支払手形及び買掛金	725,162	725,162	-
(2)短期借入金	8,903	8,903	-
(3)長期借入金 (1年内返済予定の長期借入金を含む)	1,115,964	1,116,154	190
負債計	1,850,029	1,850,220	190
デリバティブ取引	-	-	-

当連結会計年度(平成30年3月31日)

(単位:千円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預金	8,267,995	8,267,995	-
(2)受取手形及び売掛金	4,481,797	4,481,797	-
(3)有価証券及び投資有価証券	3,013,167	3,075,866	62,698
満期保有目的の債券	2,674,471	2,737,169	62,698
その他有価証券	338,696	338,696	-
資産計	15,762,960	15,825,659	62,698
(1)支払手形及び買掛金	626,285	626,285	-
(2)短期借入金	109	109	-
(3)長期借入金 (1年内返済予定の長期借入金を含む)	3,574,585	3,573,255	1,329
負債計	4,200,980	4,199,650	1,329
デリバティブ取引	-	-	-

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項  
資産

(1) 現金及び預金、(2)受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3)有価証券及び投資有価証券

満期保有目的の債券の時価は、証券会社が提示する参考価格によっております。

市場価格のある株式の時価は、取引所の価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、(2)短期借入金（一年内返済予定の長期借入金を除く）

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3)長期借入金（一年内返済予定の長期借入金を含む）

時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	平成29年3月31日	平成30年3月31日
非上場株式等（関係会社株式を含む）	2,094,397千円	2,480,568千円

これらについては、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3)有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度（平成29年3月31日）

（単位：千円）

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
(1)現金及び預金	9,046,980	-	-	-
(2)受取手形及び売掛金	4,235,207	-	-	-
(3)投資有価証券				
満期保有目的の債券	804,690	682,974	1,810,000	129,970
金銭債権及び満期がある有価証券合計	14,086,878	682,974	1,810,000	129,970

当連結会計年度（平成30年3月31日）

（単位：千円）

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
(1)現金及び預金	8,267,995	-	-	-
(2)受取手形及び売掛金	4,481,797	-	-	-
(3)投資有価証券 満期保有目的の債券	210,627	502,574	1,831,299	129,970
金銭債権及び満期がある有価証券合計	12,960,419	502,574	1,831,299	129,970

（注4）長期借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度（平成29年3月31日）

（単位：千円）

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
短期借入金	8,903	-	-	-
長期借入金	76,632	839,332	200,000	-
合計	85,535	839,332	200,000	-

当連結会計年度（平成30年3月31日）

（単位：千円）

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
短期借入金	109	-	-	-
長期借入金	372,290	1,202,295	2,000,000	-
合計	372,399	1,202,295	2,000,000	-

(有価証券関係)

1 満期保有目的の債券

前連結会計年度(平成29年3月31日)

(単位:千円)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額	連結決算日における 時価	差額
時価が連結貸借対照表計上額を 超えるもの	2,259,117	2,328,838	69,720
時価が連結貸借対照表計上額を 超えないもの	1,002,762	988,862	13,900
合計	3,261,879	3,317,700	55,820

当連結会計年度(平成30年3月31日)

(単位:千円)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額	連結決算日における 時価	差額
時価が連結貸借対照表計上額を 超えるもの	2,165,421	2,235,547	70,126
時価が連結貸借対照表計上額を 超えないもの	509,049	501,622	7,427
合計	2,674,471	2,737,169	62,698

2 その他有価証券

前連結会計年度(平成29年3月31日)

(単位:千円)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価 を超えるもの			
株式	229,422	92,406	137,015
その他	84,092	46,614	37,478
小計	313,514	139,021	174,493
連結貸借対照表計上額が取得原価 を超えないもの			
株式			
その他	45	72	26
小計	45	72	26
合計	313,560	139,094	174,466

(注1) 非上場株式等については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

(注2) 上表の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額です。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

(単位:千円)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価 を超えるもの			
株式	258,760	92,406	166,353
その他	79,159	46,614	32,544
小計	337,919	139,021	198,897
連結貸借対照表計上額が取得原価 を超えないもの			
株式			
その他	777	844	67
小計	777	844	67
合計	338,696	139,865	198,830

(注1) 非上場株式等については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

(注2) 上表の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額です。

3 連結会計年度中に売却した満期保有目的の債券

前連結会計年度(平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

該当事項はありません。

4 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(平成29年3月31日)

(単位:千円)

区分	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
投資信託	32,892	-	3,451

当連結会計年度(平成30年3月31日)

(単位:千円)

区分	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	10,000	10,000	-

5 保有目的の変更

前連結会計年度(平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

該当事項はありません。



6 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度(平成29年3月31日)

当連結会計年度において、投資有価証券について14,477千円減損処理を行っております。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

1 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 金利関連

前連結会計年度(平成29年3月31日)

(単位：千円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額	契約額のうち1年超	時価
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	100,400	34,000	-

当連結会計年度(平成30年3月31日)

(単位：千円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額	契約額のうち1年超	時価
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	34,000	-	-

(注) 時価の算定方法

金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の連結子会社は確定給付型の制度として退職一時金制度を設けております。

また、一部の連結子会社は退職年金制度を設けております。

当社及び一部の国内連結子会社は、上記以外に総合設立型の厚生年金基金(経済産業省関係公益法人厚生年金基金)に加入しており、自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができないため、当該年金基金への要拠出額を退職給付費用として処理しております。

また、従業員の退職等に際して、退職給付会計に準拠した数理計算による退職給付債務の対象とされない割増退職金を支払う場合があります。

なお、一部の連結子会社が有する確定給付企業年金制度及び退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

(1) 制度全体の積立状況に関する事項

	(平成28年3月31日現在)
年金資産の額	27,286,709千円
年金財政計算上の数理債務の額と最低責任準備金の額との合計額(注)	24,306,343千円
差引額	2,980,366千円

(注) 前連結会計年度においては「年金財政計算上の給付債務の額」と掲記していた項目であります。

(2) 制度全体に占める当社グループの加入人員割合

(平成28年3月31日現在)
4.8%

(3) 補足説明

	(平成28年3月31日現在)
別途積立金	4,169,692千円
当年度不足金	321,738千円
未償却過去勤務債務残高	867,588千円
差引額	2,980,366千円

過去勤務債務の償却方法は期間9年6か月の元利均等償却であります。

## 2 確定給付制度

### (1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

退職給付債務の期首残高	4,253,211千円
勤務費用(注)1	350,126千円
利息費用	6,112千円
数理計算上の差異の発生額	27,158千円
退職給付の支払額	395,660千円
その他	23,090千円
退職給付債務の期末残高	4,217,858千円

(注)1 当社及び一部の連結子会社では簡便法を採用しており、その退職給付費用は「勤務費用」に計上しております。

### (2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

積立型制度の退職給付債務	- 千円
年金資産	- 千円

非積立型制度の退職給付債務	4,217,858千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	4,217,858千円

退職給付に係る負債	4,217,858千円
退職給付に係る資産	- 千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	4,217,858千円

### (3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

勤務費用(注)1	350,126千円
利息費用	6,112千円
数理計算上の差異の費用処理額	5,097千円
過去勤務費用の費用処理額	22,061千円
その他	1,029千円
確定給付制度に係る退職給付費用	382,368千円

(注)1 当社及び一部の連結子会社では簡便法を採用しており、その退職給付費用は「勤務費用」に計上しております。

総合設立型厚生年金基金に対する拠出額78,036千円は、上記の退職給付費用に含まれておりません。

### (4) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次の通りであります。

過去勤務費用	22,061千円
数理計算上の差異	- 千円
合計	22,061千円

### (5) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次の通りであります。

未認識過去勤務費用	44,122千円
未認識数理計算上の差異	- 千円
その他	- 千円
合計	44,122千円

### (6) 数理計算上の計算基礎に関する事項

割引率	0.4%
予想昇給率	4.0%

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の連結子会社は確定給付型の制度として退職一時金制度を設けております。

また、一部の連結子会社は退職年金制度を設けております。

当社及び一部の国内連結子会社は、上記以外に総合設立型の厚生年金基金（経済産業省関係公益法人厚生年金基金）に加入しており、自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができないため、当該年金基金への要拠出額を退職給付費用として処理しております。

また、従業員の退職等に際して、退職給付会計に準拠した数理計算による退職給付債務の対象とされない割増退職金を支払う場合があります。

なお、一部の連結子会社が有する確定給付企業年金制度及び退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

(1) 制度全体の積立状況に関する事項

	(平成29年3月31日現在)
年金資産の額	29,314,650千円
年金財政計算上の数理債務の額と最低責任準備金の額との合計額	25,927,132千円
差引額	3,387,518千円

(2) 制度全体に占める当社グループの加入人員割合

(平成29年3月31日現在)
4.8%

(3) 補足説明

	(平成29年3月31日現在)
別途積立金	3,847,954千円
当年度不足金	345,342千円
未償却過去勤務債務残高	805,778千円
差引額	3,387,518千円

過去勤務債務の償却方法は期間9年6か月の元利均等償却であります。

## 2 確定給付制度

### (1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

退職給付債務の期首残高	4,217,858千円
勤務費用(注)1	383,738千円
利息費用	6,112千円
数理計算上の差異の発生額	49,660千円
退職給付の支払額	295,948千円
その他	18,013千円
退職給付債務の期末残高	4,343,408千円

(注)1 当社及び一部の連結子会社では簡便法を採用しており、その退職給付費用は「勤務費用」に計上しております。

### (2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

積立型制度の退職給付債務	- 千円
年金資産	- 千円

非積立型制度の退職給付債務	4,343,408千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	4,343,408千円

退職給付に係る負債	4,343,408千円
退職給付に係る資産	- 千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	4,343,408千円

### (3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

勤務費用(注)1	383,738千円
利息費用	6,112千円
数理計算上の差異の費用処理額	27,599千円
過去勤務費用の費用処理額	22,061千円
その他	4,048千円
確定給付制度に係る退職給付費用	443,559千円

(注)1 当社及び一部の連結子会社では簡便法を採用しており、その退職給付費用は「勤務費用」に計上しております。

総合設立型厚生年金基金に対する拠出額80,985千円は、上記の退職給付費用に含まれておりません。

### (4) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次の通りであります。

過去勤務費用	22,061千円
数理計算上の差異	- 千円
合計	22,061千円

### (5) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次の通りであります。

未認識過去勤務費用	22,061千円
未認識数理計算上の差異	- 千円
その他	- 千円
合計	22,061千円

### (6) 数理計算上の計算基礎に関する事項

割引率	0.4%
予想昇給率	3.8%

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
<b>繰延税金資産</b>		
賞与引当金	84,031千円	102,797千円
未払賞与	112,400千円	168,657千円
減価償却費	197,060千円	54,683千円
退職給付に係る負債	1,149,224千円	1,299,247千円
役員退職慰労引当金	118,718千円	115,789千円
投資有価証券評価損	34,504千円	18,410千円
繰越欠損金	28,103千円	143,181千円
その他	428,695千円	229,023千円
繰延税金資産小計	2,152,738千円	2,131,791千円
評価性引当額	468,772千円	474,706千円
繰延税金資産合計	1,683,965千円	1,657,084千円
<b>繰延税金負債</b>		
その他有価証券評価差額金	53,757千円	69,777千円
その他	- 千円	- 千円
繰延税金負債合計	53,757千円	69,777千円
繰延税金資産(負債)の純額	1,630,207千円	1,587,307千円

繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
流動資産 繰延税金資産	237,684千円	321,569千円
固定資産 繰延税金資産	1,392,522千円	1,265,738千円
流動負債 繰延税金負債	- 千円	- 千円
固定負債 繰延税金負債	- 千円	- 千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	30.9%	30.9%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.3%	2.7%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	2.9%	4.1%
住民税均等割等	0.5%	1.0%
持分法投資利益	- %	18.1%
評価性引当額の増減額	1.6%	0.9%
役員賞与等の損金に算入されない額	4.7%	8.4%
税額控除	0.9%	0.7%
その他	1.0%	1.0%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	37.9%	23.4%

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

資産除去債務の総額に重要性が乏しいため注記を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

(1) 賃貸等不動産の概要

当社は東京都に、賃貸用のオフィスビル(土地を含む)を有しております。なお、国内の賃貸オフィスビルの一部については、当社及び一部の連結子会社が使用しているため、賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産としております。

平成29年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は 36,911千円であります。

平成30年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は 67,428千円であります。

賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する連結貸借対照表計上額及び連結決算日における時価及び当該時価の算定方法は以下のとおりであります。

(2) 賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、連結決算日における時価及び当該時価の算定方法

			前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
賃貸等不動産として 使用される部分を含 む不動産	連結貸借対照表計上額	期首残高	184,301千円	1,868,362千円
		期中増減額	1,684,060千円	2,947,319千円
		期末残高	1,868,362千円	4,815,682千円
	期末時価		2,085,000千円	5,800,000千円

(注1) 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

(注2) 期中の主な変動は賃貸ビルの大規模修繕によるものであります。

(注3) 連結決算日における時価は、「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額(指標等を用いて調整を行ったものを含みます)であります。



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、最高経営意思決定機関が、経営資源の配分の決定及び実績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものです。

当社グループでは持株会社体制の下、各事業会社が各々の事業活動を行っており、当社はグループの経営戦略の策定やグループ管理を行っております。

したがって、当社グループは、各事業会社をベースに、取り扱う製品・サービスの種類・性質の類似性を考慮したセグメントから構成されており、「シンクタンク・コンサルティング事業」、「ITソリューション事業」及び「不動産賃貸事業」を報告セグメントとしています。

各報告セグメントに属する主な製品及びサービスは次のとおりであります。

報告セグメント	主な製品及びサービス
シンクタンク・コンサルティング事業	経営コンサルティング事業、研修及び出版事業、受託調査及びマーケティング情報サービス事業、TPM活動に関するコンサルティング及びセミナー事業等
ITソリューション事業	ITコンサルティング及びソフトウェア開発事業等
不動産賃貸事業	ビルディング賃貸および管理事業等

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一です。報告セグメントの利益は営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

## 3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位:千円)

	シンクタンク ・コンサル ティング事業	ITソリュー ション事業	不動産賃貸 事業	合計	調整額 (注1)	連結財務諸表 計上額
売上高						
外部顧客への売上高	10,447,450	9,539,053	347,379	20,333,883	-	20,333,883
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,950	100,545	250,617	354,113	354,113	-
計	10,450,400	9,639,599	597,996	20,687,997	354,113	20,333,883
セグメント利益又は損失 ( )	719,486	660,799	215,413	1,164,872	224,064	940,808
セグメント資産	11,421,343	4,917,367	2,570,387	18,909,098	5,082,864	23,991,962
その他の項目						
減価償却費	94,272	61,834	157,188	313,295	7,299	320,595
有形固定資産及び無形 固定資産の増加額	66,544	75,329	1,924,572	2,066,446	66,071	2,000,375

- (注1) 1. 営業利益の調整額 224,064千円は、セグメント間取引消去438,342千円、各報告セグメントに配分していない全社費用214,278千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント資産の調整額5,082,864千円には各報告セグメントに配分していない全社資産5,873,960千円及びセグメント間の債権の相殺消去等 791,096千円が含まれています。
3. 法人税法の改正に伴い、平成28年4月1日以降に取得した建物付属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更したため、事業セグメントの減価償却の方法を同様に変更しております。
- 当該変更により、従来の方法に比べて、当連結会計年度の「ITソリューション事業」のセグメント利益が608千円増加し、「不動産賃貸事業」のセグメント利益が68,632千円増加しております。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位:千円)

	シンクタンク ・コンサル ティング事業	ITソリュー ション事業	不動産賃貸 事業	合計	調整額 (注1)	連結財務諸表 計上額
売上高						
外部顧客への売上高	10,794,988	8,684,872	329,304	19,809,165	-	19,809,165
セグメント間の内部 売上高又は振替高	7,129	165,346	242,379	414,855	414,855	-
計	10,802,117	8,850,218	571,684	20,224,021	414,855	19,809,165
セグメント利益又は損失 ( )	701,433	460,955	561,507	600,881	272,547	328,334
セグメント資産	12,451,859	5,251,412	5,200,308	22,903,580	3,737,863	26,641,443
その他の項目						
減価償却費	87,799	48,961	171,846	308,606	7,409	316,016
有形固定資産及び無形 固定資産の増加額	162,128	39,802	3,042,572	3,244,503	65,532	3,178,971

- (注1) 1. 営業利益の調整額 272,547千円は、セグメント間取引消去 482,139千円、各報告セグメントに配分していない全社費用209,592千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント資産の調整額3,737,863千円には各報告セグメントに配分していない全社資産4,367,849千円及びセグメント間の債権の相殺消去等 629,986千円が含まれています。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1)売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2)有形固定資産

全セグメントの有形固定資産の金額の合計額に占める国内セグメントの割合が90%を超えているため、記載を省略しています。

3. 主要な顧客ごとの情報

顧客の名称または氏名	売上高(千円)	関連するセグメント名
みずほ情報総研株式会社	4,708,716	ITソリューション事業

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1)売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2)有形固定資産

全セグメントの有形固定資産の金額の合計額に占める国内セグメントの割合が90%を超えているため、記載を省略しています。

3. 主要な顧客ごとの情報

顧客の名称または氏名	売上高(千円)	関連するセグメント名
みずほ情報総研株式会社	3,640,827	ITソリューション事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等に限る)等  
該当事項はありません。

連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

種類	会社等の 名称又は 氏名	所在地	資本金又 は出資金 (千円)	事業の内 容又は職 業	議決権等の 所有(被所 有)割合 (%)	関連当 事者との 関係	取引の内容	取引金 額(千 円)	科目	期末残高 (千円)
関連会社 の子会社	株式会 社 新寿堂	東京 都 板橋 区	100,000	手帳の製 造販売	所有 間接 39.5	-	貸付金の入金 受取利息	725,000 6,281	1年内返済 予定の長期 貸付金 長期貸付金	- -

(注1) 上記取引金額には消費税は含まず、期末残高には消費税等を含んで表示しております。

(注2) 取引条件及び取引条件の決定方針等

取引条件に関しては、両社協議の上で個別に決定しておりますが、資本関係のない会社と通常取引する場合と同様の条件であります。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

連結財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等  
該当事項はありません。

連結財務諸表提出会社の役員及び個人主要株主(個人の場合に限る)等  
前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)  
重要性が乏しいため記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)  
重要性が乏しいため記載を省略しております。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引  
該当事項はありません。

## 2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

### 重要な関連会社の要約財務情報

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

当連結会計年度において、重要な関連会社は株式会社日本能率協会マネジメントセンターであり、その要約連結財務情報は以下のとおりであります。なお、株式会社日本能率協会マネジメントセンターは、決算日が異なるため、要約的財務諸表は連結決算日現在で実施した仮決算に基づくものであります。

流動資産合計	7,961,957千円
固定資産合計	4,581,670千円
流動負債合計	4,752,614千円
固定負債合計	4,859,088千円
純資産合計	2,931,925千円
売上高	16,169,172千円
税金等調整前当期純利益	986,365千円
親会社株主に帰属する当期純利益	694,479千円

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

当連結会計年度において、重要な関連会社は株式会社日本能率協会マネジメントセンターであり、その要約連結財務情報は以下のとおりであります。なお、株式会社日本能率協会マネジメントセンターは、決算日が異なるため、要約的財務諸表は連結決算日現在で実施した仮決算に基づくものであります。

流動資産合計	9,759,502千円
固定資産合計	4,191,070千円
流動負債合計	5,055,819千円
固定負債合計	4,904,226千円
純資産合計	3,990,527千円
売上高	15,958,133千円
税金等調整前当期純利益	1,120,550千円
親会社株主に帰属する当期純利益	812,886千円

( 1 株当たり情報)

項目	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
1株当たり純資産額	4,093,605円43銭	4,121,953円96銭
1株当たり当期純利益金額	206,073円19銭	135,713円83銭

(注) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

1 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	725,315	485,334
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	725,315	485,334
普通株式の期中平均株式数(株)	3,520	3,576
(うち普通株式)	( - )	( - )
(うち甲種類株式)	( 3,520 )	( 3,576 )

(注) 甲種類株式は剰余金の配当請求権及び残余財産分配請求権について普通株式と同等の権利を有しているため、1株当たり情報の算定上、普通株式に含めて計算しております。

2 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	14,598,046	14,988,723
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)		
(うち乙種類株式)	( 2,250 )	( 2,400 )
(うち非支配株主持分)	( 63,497 )	( 3,020 )
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	14,532,299	14,983,302
1株当たり純資産額の算定に用いられた 普通株式の数(株)	3,550	3,635
(うち普通株式)	( - )	( - )
(うち甲種類株式)	( 3,550 )	( 3,635 )

(注) 甲種類株式は剰余金の配当請求権及び残余財産分配請求権について普通株式と同等の権利を有しているため、1株当たり情報の算定上、普通株式に含めて計算しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	8,903	109	4.56	-
1年以内に返済予定の長期借入金	76,632	372,290	0.67	-
1年以内に返済予定のリース債務	15,142	19,247	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	1,039,332	3,202,295	0.44	平成31年4月30日～ 平成39年9月17日
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)	28,053	31,526	-	平成31年4月～ 平成34年10月
其他有利子負債	-	-	-	-
合計	1,168,063	3,625,469	-	-

(注1)「平均利率」については、借入金の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

なお、リース債務については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、「平均利率」を記載しておりません。

(注2)長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	302,295	300,000	300,000	300,000
リース債務	13,468	9,345	5,059	3,652

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2)【その他】

特記事項はありません。



## 2 【財務諸表等】

## (1) 【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,114,178	847,335
営業未収入金	1 13,921	1 12,053
有価証券	701,970	200,000
前払費用	59,344	11,247
繰延税金資産	1,640	2,043
その他	1 435,262	1 980,820
流動資産合計	3,326,319	2,053,500
固定資産		
有形固定資産		
建物	2,393,706	2 4,473,783
減価償却累計額	2,309,476	64,758
建物(純額)	84,230	4,409,024
構築物	46,811	2 55,794
減価償却累計額	46,811	1,325
構築物(純額)	-	54,468
工具、器具及び備品	59,984	253,963
減価償却累計額	57,077	27,316
工具、器具及び備品(純額)	2,907	226,646
土地	2 125,541	2 125,541
建設仮勘定	1,742,820	-
有形固定資産合計	1,955,499	4,815,682
無形固定資産		
ソフトウェア	4,333	50,363
無形固定資産合計	4,333	50,363
投資その他の資産		
投資有価証券	2,283,827	2,201,033
関係会社株式	6,370,852	6,370,852
出資金	50,000	50,000
差入保証金	366,334	366,214
繰延税金資産	166,977	767
その他	4,720	2,000
貸倒引当金	690	-
投資その他の資産合計	9,242,023	8,990,868
固定資産合計	11,201,856	13,856,914
資産合計	14,528,175	15,910,414
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払金	1 27,983	1 39,133
短期借入金	-	2 300,000
未払法人税等	205,487	1,471
前受金	1 38,722	1 31,625
預り金	10,702	4,379
賞与引当金	3,392	4,066
役員賞与引当金	9,000	10,500
その他	1,000	3,457
流動負債合計	296,287	394,634
固定負債		

関係会社長期借入金	1,580,000	1,580,000
長期借入金	<sup>2</sup> 1,000,000	<sup>2</sup> 3,200,000
退職給付引当金	8,612	10,246
役員退職慰労引当金	29,500	33,340
長期預り保証金	<sup>1</sup> 588,101	<sup>1</sup> 299,848
固定負債合計	3,206,213	5,123,434
負債合計	3,502,500	5,518,069
純資産の部		
株主資本		
資本金	500,000	500,000
資本剰余金		
その他資本剰余金	9,391,036	9,389,178
資本剰余金合計	9,391,036	9,389,178
利益剰余金		
利益準備金	125,000	125,000
その他利益剰余金		
社屋建設積立金	360,000	-
別途積立金	2,235,340	2,235,340
繰越利益剰余金	876,580	589,296
利益剰余金合計	3,596,920	2,949,636
自己株式	2,541,964	2,535,706
株主資本合計	10,945,992	10,303,108
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	79,681	89,236
評価・換算差額等合計	79,681	89,236
純資産合計	11,025,674	10,392,344
負債純資産合計	14,528,175	15,910,414

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
<b>売上高</b>		
不動産賃貸収入	1 595,793	1 568,695
関係会社受取配当金収入	1 102,350	1 80,236
その他事業収入	1 2,203	2,988
<b>売上高合計</b>	<b>700,346</b>	<b>651,920</b>
<b>売上原価</b>		
不動産賃貸原価	787,698	1 1,137,209
その他事業原価	-	1 2,791
<b>売上原価合計</b>	<b>787,698</b>	<b>1,140,000</b>
売上総損失( )	87,351	488,080
販売費及び一般管理費	1, 2 251,189	1, 2 256,923
営業損失( )	338,541	745,003
<b>営業外収益</b>		
受取利息	6,431	90
有価証券利息	31,338	30,802
受取配当金	6,025	6,556
雑収入	1,337	1,428
<b>営業外収益合計</b>	<b>45,131</b>	<b>38,878</b>
<b>営業外費用</b>		
支払利息	1 20,055	1 22,283
雑損失	2,809	-
<b>営業外費用合計</b>	<b>22,865</b>	<b>22,283</b>
経常損失( )	316,274	728,408
<b>特別利益</b>		
固定資産売却益	3 23	-
補助金収入	-	75,000
<b>特別利益合計</b>	<b>23</b>	<b>75,000</b>
<b>特別損失</b>		
固定資産処分損	-	4 1,564
事務所移転費用	12,942	194,164
<b>特別損失合計</b>	<b>12,942</b>	<b>195,729</b>
税引前当期純損失( )	329,193	849,137
法人税、住民税及び事業税	83,026	381,145
法人税等調整額	2,787	161,541
<b>法人税等合計</b>	<b>85,814</b>	<b>219,603</b>
当期純損失( )	243,379	629,533

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	500,000	-	9,394,756	9,394,756
会計方針の変更による 累積的影響額				
会計方針の変更を反映し た当期首残高	500,000	-	9,394,756	9,394,756
当期変動額				
剰余金の配当				
当期純損失( )				
社屋建設積立金の取崩				
自己株式の取得				
自己株式の処分			3,720	3,720
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)				
当期変動額合計	-	-	3,720	3,720
当期末残高	500,000	-	9,391,036	9,391,036

	株主資本				
	利益準備金	利益剰余金			利益剰余金合計
		その他利益剰余金			
		社屋建設積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	125,000	360,000	2,235,340	1,121,341	3,841,681
会計方針の変更による 累積的影響額				15,768	15,768
会計方針の変更を反映し た当期首残高	125,000	360,000	2,235,340	1,137,109	3,857,449
当期変動額					
剰余金の配当				17,150	17,150
当期純損失( )				243,379	243,379
社屋建設積立金の取崩					
自己株式の取得					
自己株式の処分					
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	-	260,529	260,529
当期末残高	125,000	360,000	2,235,340	876,580	3,596,920

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等 合計	
当期首残高	2,551,684	11,184,753	71,281	71,281	11,256,034
会計方針の変更による 累積的影響額		15,768			15,768
会計方針の変更を反映し た当期首残高	2,551,684	11,200,521	71,281	71,281	11,271,802
当期変動額					
剰余金の配当		17,150			17,150
当期純損失( )		243,379			243,379
社屋建設積立金の取崩					
自己株式の取得	2,550	2,550			2,550
自己株式の処分	12,270	8,550			8,550

株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）			8,400	8,400	8,400
当期変動額合計	9,720	254,529	8,400	8,400	246,128
当期末残高	2,541,964	10,945,992	79,681	79,681	11,025,674

当事業年度(自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	500,000	-	9,391,036	9,391,036
会計方針の変更による 累積的影響額				
会計方針の変更を反映し た当期首残高	500,000	-	9,391,036	9,391,036
当期変動額				
剰余金の配当				
当期純損失( )				
社屋建設積立金の取崩				
自己株式の取得				
自己株式の処分			1,857	1,857
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)				
当期変動額合計	-	-	1,857	1,857
当期末残高	500,000	-	9,389,178	9,389,178

	株主資本				
	利益準備金	利益剰余金			利益剰余金合計
		その他利益剰余金			
		社屋建設積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	125,000	360,000	2,235,340	876,580	3,596,920
会計方針の変更による 累積的影響額				-	-
会計方針の変更を反映し た当期首残高	125,000	360,000	2,235,340	876,580	3,596,920
当期変動額					
剰余金の配当				17,750	17,750
当期純損失( )				629,533	629,533
社屋建設積立金の取崩		360,000		360,000	-
自己株式の取得					
自己株式の処分					
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	360,000	-	287,283	647,283
当期末残高	125,000	-	2,235,340	589,296	2,949,636

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等 合計	
当期首残高	2,541,964	10,945,992	79,681	79,681	11,025,674
会計方針の変更による 累積的影響額		-			-
会計方針の変更を反映し た当期首残高	2,541,964	10,945,992	79,681	79,681	11,025,674
当期変動額					
剰余金の配当		17,750			17,750
当期純損失( )		629,533			629,533
社屋建設積立金の取崩					
自己株式の取得	-	-			
自己株式の処分	6,257	4,400			4,400
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			9,554	9,554	9,554
当期変動額合計	6,257	642,883	9,554	9,554	633,329

当期末残高	2,535,706	10,303,108	89,236	89,236	10,392,344
-------	-----------	------------	--------	--------	------------

## 【注記事項】

(重要な会計方針)

### 1 有価証券の評価基準及び評価方法

#### (1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

#### (2) 満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)

#### (3) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

### 2 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物付属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物付属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 3～50年

構築物 10～20年

工具、器具及び備品 5～15年

#### (2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

ソフトウェア 5年

#### (3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存期間を零とする定額法を採用しております。

### 3 引当金の計上基準

#### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

#### (2) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、当期に負担すべき支給見込額を計上しております。

#### (3) 役員賞与引当金

役員に対する賞与の支給に備えるため、当期に負担すべき支給見込額を計上しております。

#### (4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

#### (5) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。



4 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

税抜き方式によっております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する資産及び負債

区分掲記されたもの以外で各科目に含まれているものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
営業未収入金	698千円	741千円
未収入金	386,097千円	382,614千円
未払金	2,898千円	1,919千円
前受金	20,105千円	18,265千円
長期預り保証金	158,291千円	158,291千円

2 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産及び担保付債務は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
建物、構築物	- 千円	4,463,493千円
土地	125,541千円	125,541千円
計	125,541千円	4,589,035千円

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
短期借入金	- 千円	300,000千円
長期借入金	1,000,000千円	3,200,000千円
計	1,000,000千円	3,500,000千円

(損益計算書関係)

1 各科目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
不動産賃貸収入	249,031千円	242,379千円
関係会社受取配当金収入	102,350千円	80,236千円
その他事業収入	1,650千円	- 千円
不動産賃貸原価	- 千円	26,393千円
その他事業原価	- 千円	2,779千円
販売費及び一般管理費	15,564千円	3,789千円
支払利息	15,050千円	15,800千円

2 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
役員報酬	51,100千円	38,100千円
給料	37,591千円	54,132千円
賞与引当金繰入額	3,392千円	4,066千円
役員賞与引当金繰入額	9,000千円	10,500千円
退職給付費用	2,704千円	1,634千円
役員退職慰労引当金繰入額	17,430千円	3,840千円
租税公課	6,549千円	10,165千円
減価償却費	7,299千円	9,083千円
業務委託費	60,843千円	55,271千円

3 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
工具、器具及び備品	23千円	- 千円

4 固定資産処分損の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
工具、器具及び備品	- 千円	1,564千円

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額

区分	前事業年度(平成29年3月31日)	当事業年度(平成30年3月31日)
子会社株式	5,363,106千円	5,363,106千円
関連会社株式	1,007,746千円	1,007,746千円

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生 の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
(繰延税金資産)		
賞与引当金	798千円	951千円
退職給付引当金	2,123千円	2,526千円
役員退職慰労引当金	7,274千円	8,221千円
ゴルフ会員権評価損	1,978千円	1,877千円
貸倒引当金	170千円	-千円
投資有価証券評価損	17,269千円	16,386千円
減価償却費	192,988千円	29,849千円
その他	997千円	1,092千円
繰越欠損金	28,103千円	121,506千円
繰延税金負債(固定) との相殺	35,565千円	39,829千円
繰延税金資産小計	216,138千円	142,581千円
評価性引当額	47,521千円	139,769千円
繰延税金資産合計	168,617千円	2,811千円
(繰延税金負債)		
固定負債		
その他有価証券評価差額金	35,565千円	39,829千円
繰延税金資産(固定) との相殺	35,565千円	39,829千円
繰延税金負債合計	-千円	-千円
差引: 繰延税金資産純額	168,617千円	2,811千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった  
主要な項目別の内訳

前事業年度、当事業年度とも税引前当期純損失であるため、注記を省略しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

銘柄		株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	
投資 有価証券	その他 有価証券	大東建託(株)	5,040	92,685
		京成電鉄(株)	2,500	8,175
		キッセイ薬品工業株	1,000	2,875
		(株)小田原エンジニアリング	1,440	3,565
		日本電信電話(株)	200	980
		(株)みずほフィナンシャルグループ	455,000	87,087
計		465,180	195,368	

## 【債券】

		銘柄	券面総額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)
有価証券	満期保有 目的の 債券	三菱UFJ証券ホールディングス クレ ジットリンク債	100,000	100,000
		ジェッツINTLスリーLTD SR.871	100,000	100,000
		小計	200,000	200,000
投資 有価証券	満期保有 目的の 債券	ドイツ復興金融公庫 ユーロ円債(平成 49年11月償還)	100,000	29,970
		第17回シティグループ・インク円貨社債	105,950	101,961
		The Goldman Sachs Group, Inc 2,020年2 月13日満期ユーロ円建社債	99,750	99,930
		ゴールドマンサックス2578-9052	11,000	10,465
		ゴールドマンサックス2579-9052	33,000	31,396
		ロイヤルバンクオブスコットランド	104,700	101,682
		クレディ・アグリコル・エス・エー 第一 回円貨社債	200,000	209,512
		第21回みずほ銀行期限前償還条項付劣後社 債	500,000	500,000
		クレディ・スイス円貨建債(固定利率型)	100,000	100,000
		ビーピーシーイーエスエー第4回円貨社債 (劣後特約付き)	200,000	211,055
		ソシエテジェネラル円貨社債(劣後特約付 き)	200,000	209,691
		ゴールドマンサックス劣後債	100,000	100,000
		ドイツ銀行ロンドン支店ユーロ円建て債	200,000	200,000
		ビー・エヌ・ピー・パリバ第2回非上位円 貨社債	100,000	100,000
		小計	2,054,400	2,005,665
計			2,254,400	2,205,665

## 【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期償却額 (千円)	当期末残高 (千円)	減価償却累計 額 (千円)
有形固定資産						
建物	84,230	4,473,783	-	148,988	4,409,024	64,758
構築物	-	55,794	-	1,325	54,468	1,325
工具、器具及び備品	2,907	250,469	1,564	25,165	226,646	27,316
土地	125,541	-	-	-	125,541	-
建設仮勘定	1,742,820	3,695,805	5,438,625	-	-	-
有形固定資産計	1,955,499	8,475,853	5,440,190	175,479	4,815,682	93,400
無形固定資産						
ソフトウェア	4,333	51,479	-	5,449	50,363	14,953
無形固定資産計	4,333	51,479	-	5,449	50,363	14,953

当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

建物、構築物、工具、器具及び備品 賃貸用不動産の改築 4,780,047千円

## 【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	690	-	690	-
賞与引当金	3,392	4,066	3,392	4,066
役員賞与引当金	9,000	10,500	9,000	10,500
役員退職慰労引当金	29,500	3,840	-	33,340

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。



第 6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
株券の種類	当社は株券を発行しておりません。
剰余金の配当の基準日	3月31日
1単元の株式数	1株
株式の名義書換え 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 名義書換手数料 新券交付手数料	東京都港区芝公園三丁目1番22号 当社事業・管理本部
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	東京都港区芝公園三丁目1番22号 当社事業・管理本部
公告掲載方法	官報
株主に対する特典	

(注) 当社の甲種類株式及び乙種類株式は譲渡制限株式であり、これを譲渡により取得するには取締役会の承認が必要になります。

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

該当事項はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度 第56期（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

平成29年6月26日関東財務局長に提出。

#### (2) 半期報告書

事業年度 第57期中（自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日）

平成29年12月25日関東財務局長に提出。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書

平成30年 6 月22日

株式会社 J M A ホールディングス  
取締役会 御中

青南監査法人

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 齋 藤 敏 雄

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 大 野 木 猛

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社 J M A ホールディングスの平成29年 4 月1日から平成30年 3 月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社 J M A ホールディングス及び連結子会社の平成30年 3 月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成30年6月22日

株式会社 J M A ホールディングス  
取締役会 御中

青南監査法人

代表社員 公認会計士 齋藤 敏雄  
業務執行社員

代表社員 公認会計士 大野 木 猛  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社 J M A ホールディングスの平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第57期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社 J M A ホールディングスの平成30年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。